

第八百十四條 前條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ行爲ニ同意シタルトキハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス  
前條第一號乃至第七號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方又ハ其直系尊屬ノ行爲ヲ宥恕シタルトキ亦同シ

人第八二條

第八百十五條 第八百十三條第四號ニ掲ケタル處刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其配偶者ニ同一ノ事由アルコトヲ理由トシテ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百十六條 第八百十三條第一號乃至第八號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離婚ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

人第一四八條

第八百十七條 第八百十三條第九號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ配偶者ノ生死カ分明ト爲リタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス  
第八百十八條 第八百十三條第十號ノ場合ニ於テ離縁又ハ縁組取消ノ請求アリタルトキハ之ニ附帶シテ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八百十三條第十號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ當事者カ離縁又ハ縁組ノ取消アリタルコトヲ知リタル後三個月ヲ經過シ又ハ離婚請求ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得

人第九〇條

第八百十九條 第八百十二條ノ規定ハ裁判上ノ離婚ニ之ヲ準用ス但裁判所ハ子ノ利益ノ爲メ其監護ニ付キ之ニ異ナリタル處分ヲ命スルコトヲ得

### 第四章 親子

#### 第一節 實子

##### 第一款 嫡出子

人第九一條

第八百二十條 妻カ婚姻中ニ懐胎シタル子ハ夫ノ子ト推定ス

婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日內ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタルモノト推定ス

人第一〇〇條

第八百二十一條 第七百六十七條第一項ノ規定ニ違反シテ再婚ヲ爲シタル女カ分娩シタル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ其子ノ父ヲ定ムルコト能ハサルトキハ裁判所之ヲ定ム  
第八百二十二條 第八百二十條ノ場合ニ於テ夫ハ子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルコトヲ得  
第八百二十三條 前條ノ否認權ハ子又ハ其法定代理人ニ對スル訴ニ依リテ之ヲ行フ但夫カ子ノ法定代理人ナルトキハ裁判所ハ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス

第八百二十四條 夫カ子ノ出生後ニ於テ其嫡出ナルコトヲ承認シタルトキハ其否認權ヲ失フ

人第一〇二條

第八百二十五條 否認ノ訴ハ夫カ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

百七十四

第八百二十六條 夫カ未成年者ナルトキハ前條ノ期間ハ其成年ニ達シタル時ヨリ之ヲ起算ス但夫カ成年ニ達シタル後ニ子ノ出生ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス  
夫カ禁治産者ナルトキハ前條ノ期間ハ禁治産ノ取消アリタル後夫カ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二款 庶子及ヒ私生子

人第九五條乃至第九九條

第八百二十七條 私生子ハ其父又ハ母ニ於テ之ヲ認知スルコトヲ得

父カ認知シタル私生子ハ之ヲ庶子トス

人第九五條乃至第九九條

第八百二十八條 私生子ノ認知ヲ爲スニハ父又ハ母カ無能力者ナルトキト雖モ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

人第九九條

第八百二十九條 私生子ノ認知ハ戸籍吏ニ届出ツルニ依リテ之ヲ爲ス

認知ハ遺言ニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得

人第二條

第八百三十條 成年ノ私生子ハ其承諾アルニ非サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十一條 父ハ胎内ニ在ル子ト雖モ之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テハ母ノ承諾

ヲ得ルコトヲ要ス

父又ハ母ハ死亡シタル子ト雖モ其直系卑屬アルトキニ限り之ヲ認知スルコトヲ得此場合

ニ於テ其直系卑屬カ成年者ナルトキハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第八百三十二條 認知ハ出生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ

害スルコトヲ得ス

第八百三十三條 認知ヲ爲シタル父又ハ母ハ其認知ヲ取消スコトヲ得ス

第八百三十四條 子、其他ノ利害關係人ハ認知ニ對シテ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得

第八百三十五條 子、其直系卑屬又ハ此等ノ者ノ法定代理人ハ父又ハ母ニ對シテ認知ヲ求

ムルコトヲ得

第八百三十六條 庶子ハ其父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得ス

婚姻中父母カ認知シタル私生子ハ其認知ノ時ヨリ嫡出子タル身分ヲ取得ス

前二項ノ規定ハ子カ既ニ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二節 養子

第一款 縁組ノ要件

第八百三十七條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

人第一〇三條乃至第一〇五條

人一〇六條一

人第一〇六條

第八百三十八條 尊屬又ハ年長者ハ之ヲ養子ト爲スコトヲ得ス

百七十六

人第一〇七條

第八百三十九條 法定ノ推定家督相續人タル男子アル者ハ男子ヲ養子トスルコトヲ得ス但  
女婿ト爲ス爲メニスル場合ハ此限ニ在ラス

人第一〇八條

第八百四十條 後見人ハ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得ス其任務カ終了シタル後未タ管  
理ノ計算ヲ終ハラサル間亦同シ

人第一一〇條

前項ノ規定ハ第八百四十八條ノ場合ニハ之ヲ適用セス

人第一一〇條

第八百四十一條 配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ縁組ヲ爲スコトヲ得ス  
夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ子ヲ養子ト爲スニハ他ノ一方ノ同意ヲ得ルヲ以テ足ル

人第一一〇條  
人第一一〇條

第八百四十二條 前條第一項ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ其意思ヲ表示スルコト能ハサルト  
キハ他ノ一方ハ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲スコトヲ得  
第八百四十三條 養子ト爲ルヘキ者カ十五年未滿ナルトキハ其家ニ在ル父母之ニ代ハリテ  
縁組ノ承諾ヲ爲スコトヲ得

繼父母又ハ嫡母カ前項ノ承諾ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百四十四條 成年ノ子カ養子ト爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニ在  
ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百四十五條 縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入ラン  
ト欲スルトキハ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但妻カ夫ニ隨ヒテ他家ニ入ルハ  
此限ニ在ラス

第八百四十六條 第七百七十二條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前三條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七百七十三條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百四十七條 第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス

人第一一三條  
人一〇六條第  
二項第一二三條  
條第一二三條

第八百四十八條 養子ト爲サント欲スル者ハ遺言ヲ以テ其意思ヲ表示スルコトヲ得此場合  
ニ於テハ遺言執行者、養子ト爲ルヘキ者又ハ第八百四十三條ノ規定ニ依リ之ニ代ハリテ  
承諾ヲ爲シタル者及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ遺言カ效力ヲ生シタル後遲滞ナク縁組ノ  
届出ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ届出ハ養親ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

人第一一三條  
第三項第一一  
四條第一二一  
條

第八百四十九條 戶籍吏ハ縁組カ第七百四十一條第一項、第七百四十四條第一項、第七百  
五十條第一項及ヒ前十二條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ  
其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

第七百七十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

人第一二五條  
法例第一〇條

百七十八

第八百五十條 外國ニ在ル日本人間ニ於テ縁組ヲ爲サント欲スルトキハ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其届出ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ第七百七十五條及ヒ前二條ノ規定ヲ準用ス

第二款 縁組ノ無効及ヒ取消

人第一二七條  
第一二九條

第八百五十一條 縁組ハ左ノ場合ニ限リ無効トス

- 一 人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ縁組ヲ爲ス意思ナキトキ
- 二 當事者カ縁組ノ届出ヲ爲ササルトキ但其届出カ第七百七十五條第二項及ヒ第八百四十八條第一項ニ掲ケタル條件ヲ缺クニ止マルトキハ縁組ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ

人第一二八條  
乃至第一三三條

第八百五十二條 縁組ハ後七條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第八百五十三條 第八百三十七條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ養親又ハ其法定代理人ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但養親カ成年ニ達シタル後六個月ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

人第一二八條  
第一三〇條

第八百五十四條 第八百三十八條又ハ第八百三十九條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ各當事者其戸主又ハ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

人第一〇八條  
第一二八條第  
一三〇條

第八百五十五條 第八百四十條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ養子又ハ其實方ノ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但管理ノ計算カ終ハリタル後養子カ追認ヲ爲シ又ハ六個月ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラス

追認ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル後之ヲ爲スニ非サレハ其效ナシ

養子カ成年ニ達セス又ハ能力ヲ回復セサル間ニ管理ノ計算カ終ハリタル場合ニ於テハ第一項但書ノ期間ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル時ヨリ之ヲ起算ス

人第一二八條

第八百五十六條 第八百四十一條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ同意ヲ爲ササリシ配偶者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其配偶者カ縁組アリタルコトヲ知りタル後六個月ヲ經過シタルトキハ追認ヲ爲シタルモノト看做ス

人第一三三條

第八百五十七條 第八百四十四條乃至第八百四十六條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキ亦同シ

人第一三三條

第七百八十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百五十八條 婿養子縁組ノ場合ニ於テハ各當事者ハ婚姻ノ無効又ハ取消ヲ理由トシテ縁組ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但婚姻ノ無効又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ縁組ノ

取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス

前項ノ取消權ハ當事者カ婚姻ノ無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後六個月ヲ經過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス

第八百五十九條 第七百八十五條及ヒ第七百八十七條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス但第七百八十五條第二項ノ期間ハ之ヲ六個月トス

第三款 縁組ノ效力

第八百六十條 養子ハ縁組ノ日ヨリ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得ス

第八百六十一條 養子ハ縁組ニ因リテ養親ノ家ニ入ル

第四款 離縁

第八百六十二條 縁組ノ當事者ハ其協議ヲ以テ離縁ヲ爲スコトヲ得

養子カ十五年未滿ナルトキハ其離縁ハ養親ト養子ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲ス權利ヲ有スル者トノ協議ヲ以テ之ヲ爲ス

養親カ死亡シタル後養子カ離縁ヲ爲サント欲スルトキハ戸主ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得

第八百六十三條 滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離縁ヲ爲スニハ第八百四十四條ノ規

人第一三八條

人第六二條第一  
一三一條第一  
三二條

人第二二條第  
三四條一  
人第一三四條

人第一三七條

定ニ依リ其縁組ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百七十二條第二項、第三項及ヒ第七百七十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百六十四條 第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ協議上ノ離縁ニ之ヲ準用ス

第八百六十五條 戸籍吏ハ離縁カ第七百七十五條第二項、第八百六十二條及ヒ第八百六十

三條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

戸籍吏カ前項ノ規定ニ違反シテ届出ヲ受理シタルトキト雖モ離縁ハ之ガ爲メニ其效力ヲ妨ケラレルコトナシ

第八百六十六條 縁組ノ當事者ノ一方ハ左ノ場合ニ限り離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

一 他ノ一方ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

二 他ノ一方ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ

三 養親ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ

四 他ノ一方カ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

五 養子ニ家名ヲ漬シ又ハ家産ヲ傾クヘキ重大ナル過失アリタルトキ

六 養子カ逃亡シテ三年以上復歸セザルトキ

民法 第四編 第四章 親子 第二節 養子

人第一三九條

人第一四〇條

七 養子ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

八 他ノ一方カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ

九 婿養子縁組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚若クハ婚姻ノ取消アリタルトキ

第八百六十七條 養子カ滿十五年ニ達セサル間ハ其縁組ニ付キ承諾權ヲ有スル者ヨリ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第八百四十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百六十八條 第八百六十六條第一號乃至第六號ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方

又ハ其直系尊屬ノ行爲ヲ宥恕シタルトキハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百六十九條 第八百六十六條第四號ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ行爲ニ同意シタルトキハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百六十六條第四號ニ掲ケタル刑ニ處セラレタル者ハ他ノ一方ニ同一ノ事由アルコトヲ理由トシテ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百七十條 第八百六十六條第一號乃至第五號及ヒ第八號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ之

第八百八十二條  
第一四〇條第  
二項

ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離婚ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

第八百七十一條 第八百六十六條第六號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ養親カ親子ノ復歸シタル

コトヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其復歸ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

第八百七十二條 第八百六十六條第七號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ養子ノ生死カ分明ト爲リ

タル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百七十三條 第八百六十六條第九號ノ場合ニ於テ離婚又ハ婚姻取消ノ請求アリタルト

キハ之ニ附帶シテ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八百六十六條第九號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ當事者カ離婚又ハ婚姻ノ取消アリタルコ

トヲ知リタル後六個月ヲ經過シ又ハ離婚請求ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百四十五條

第八百七十四條 養子カ戸主ト爲リタル後ハ離婚ヲ爲スコトヲ得ス但隱居ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス

第八百七十五條 養子ハ離婚ニ因リ其實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復ス但第三者カ既に取得

シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

第八百七十六條 夫婦カ養子ト爲リ又ハ養子カ養親ノ他ノ養子ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ妻カ離縁ニ因リテ養家ヲ去ルヘキトキハ夫ハ其選擇ニ從ヒ離縁又ハ離婚ヲ爲スコトヲ要ス

### 第五章 親權

#### 第一節 總則

人第二四九條

第八百七十七條 子ハ其家ニ在ル父ノ親權ニ服ス但獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ此限ニ在ラス

父カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ親權ヲ行フコト能ハサルトキハ家ニ在ル母之ヲ行フ

人第一五八條  
乃至第一六〇條

第八百七十八條 繼父、繼母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合ニ於テハ次章ノ規定ヲ準用ス

#### 第二節 親權ノ效力

人第一五〇條  
人第一五一條

第八百七十九條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ監護及ヒ教育ヲ爲ス權利ヲ有シ義務ヲ負フ

人第一五〇條

第八百八十條 未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母カ指定シタル場所ニ其居所ヲ定ムルコトヲ得ス

トヲ要ス但第七百四十九條ノ適用ヲ妨ケス

第六條財第五  
五〇條

第八百八十一條 未成年ノ子カ兵役ヲ出願スルニハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

人第一五二條  
人第一五三條

第八百八十二條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ必要ナル範圍内ニ於テ自ラ其子ヲ懲戒シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ懲戒場ニ入ルコトヲ得

子ヲ懲戒場ニ入ルル期間ハ六個月以下ノ範圍内ニ於テ裁判所之ヲ定ム但此期間ハ父又ハ母ノ請求ニ因リ何時ニテモ之ヲ短縮スルコトヲ得

第六條財五五  
〇條

第八百八十三條 未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルニ非サレハ職業ヲ營ムコトヲ得ス

父又ハ母ハ第六條第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得  
第八百八十四條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ財産ヲ管理シ又其財産ニ關スル法律行為ニ付キ其子ヲ代表ス但其子ノ行為ヲ目的トスル債務ヲ生スヘキ場合ニ於テハ本人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

人第二二二條  
財第五五〇條

第八百八十五條 未成年ノ子カ其配偶者ノ財産ヲ管理スヘキ場合ニ於テハ親權ヲ行フ父又ハ母之ニ代ハリテ其財産ヲ管理ス

人第一五四條

第八百八十六條 親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代ハリテ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲シ又ハ子ノ之ヲ爲スコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

百八十六

一 營業ヲ爲スコト

二 借財又ハ保證ヲ爲スコト

三 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ喪失ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト

四 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト

五 相續ヲ拋棄スルコト

六 贈與又ハ遺贈ヲ拒絕スルコト

財第五四七條  
第一項

第八百八十七條 親權ヲ行フ母カ前條ノ規定ニ違反シテ爲シ又ハ同意ヲ與ヘタル行爲ハ子又ハ其法定代理人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス  
前項ノ規定ハ第二百一十一條乃至第二百二十六條ノ適用ヲ妨ケス

人第一八九條

第八百八十八條 親權ヲ行フ父又ハ母ト其未成年ノ子ト利益相反スル行爲ニ付テハ父又ハ母ハ其子ノ爲メニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス  
父又ハ母カ數人ノ子ニ對シテ親權ヲ行フ場合ニ於テ其一人ト他ノ子トノ利益相反スル行爲ニ付テハ其一方ノ爲メ前項ノ規定ヲ準用ス

人第一五三條

第八百八十九條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ以テ其管理權ヲ行フコトヲ要ス  
母ハ親族會ノ同意ヲ得テ爲シタル行爲ニ付テモ其實ヲ免ルルコトヲ得ス但母ニ過失ナカリシトキハ此限ニ在ラズ

人第一五六條

第八百九十條 子カ成年ニ達シタルトキハ親權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ遲滞ナク其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス但其子ノ養育及財産ノ管理ノ費用ハ其子ノ財産ノ收益ト之ヲ相殺シタルモノト看做ス

第八百九十一條 前條但書ノ規定ハ無償ニテ子ニ財産ヲ與フル第三者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ其財産ニ付テハ之ヲ適用セス

第八百九十二條 無償ニテ子ニ財産ヲ與フル第三者カ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セシメサル意思ヲ表示シタルトキハ其財産ハ父又ハ母ノ管理ニ屬セサルモノトス

前項ノ場合ニ於テ第三者カ管理者ヲ指定セザリシトキハ裁判所ハ子、其親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理者ヲ選任ス

第三者カ管理者ヲ指定セシトキト雖モ其管理者ノ權限カ消滅シ又ハ之ヲ改任スル必要アル場合ニ於テ第三者カ更ニ管理者ヲ指定セザルトキ亦同シ



人第二〇二條  
乃至第二〇四條

人第二二一條

第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第八百九十三條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ父又ハ母カ子ノ財産ヲ管理  
スル場合及ヒ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第八百九十四條 親權ヲ行ヒタル父若シハ母又ハ親族會員ト其子トノ間ニ財産ノ管理ニ付  
テ生シタル債權ハ其管理權カ消滅ノ時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅  
ス

人第二五七條

子カ未タ成年ニ達セサル間ニ管理權カ消滅シタルトキハ前項ノ期間ハ其子カ成年ニ達シ  
又ハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百九十五條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ其未成年ノ子ニ代ハリテ戶主權及ヒ親權ヲ行フ

### 第三節 親權ノ喪失

人第一八二條

第八百九十六條 父又ハ母カ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナルトキハ裁判所ハ子ノ親族  
又ハ檢事ノ請求ニ因リ其親權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

人第一八二條

第八百九十七條 親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ其子ノ財産ヲ危シクタルトキ  
ハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得  
父カ前項ノ宣告ヲ受ケタルトキハ管理權ハ家ニ在ル母之ヲ行フ

人第二五七條

第八百九十八條 前二條ニ定メタル原因カ止ミタルトキハ裁判所ハ本人又ハ其親族ノ請求  
ニ因リ親權ノ宣告ヲ取消スルコトヲ得

第八百九十九條 親權ヲ行フ母ハ財産ノ管理ヲ辭スルコトヲ得

## 第六章 後見

### 第一節 後見ノ開始

第九百條 後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス

一 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルト

二 禁治産ノ宣告アリタルトキ

### 第二節 後見ノ機關

#### 第一款 後見人

第九百一條 未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ  
得但管理權ヲ有セサル者ハ此限ニ在ラス

親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財産ノ管理ヲ辭シタルトキハ父ハ前項ノ規定ニ依リ  
テ後見人ノ指定ヲ爲スコトヲ得

人第一六四條  
第一六五條

民法

第四編 第五章 親權 第三節 親權ノ喪失 第六章 後見 第一節 百八十九  
後見ノ開始 第二節 後見ノ機關

人第二三四條  
第二項第三項

百九十

第九百二條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ禁治産者ノ後見人ト爲ル  
妻カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ夫其後見人ト爲ル夫カ後見人タラサルトキハ前項ノ  
規定ニ依ル

人第一六六條

夫カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ妻其後見人ト爲ル妻カ後見人タラサルトキハ又ハ夫  
カ未成年者ナルトキハ第一項ノ規定ニ依ル

人第二六七條  
第二四條第  
四項

第九百三條 前二條ノ規定ニ依リテ家族ノ後見人タル者アラサルトキハ戸主其後見人ト爲  
ル

第九百四條 前三條ノ規定ニ依リテ後見人タル者アラサルトキハ後見人ハ親族會之ヲ選任  
ス

人第二六八條  
第二四條第  
四項

第九百五條 母カ財産ノ管理ヲ辭シ、後見人カ其任務ヲ辭シ、親權ヲ行ヒタル父若クハ母  
カ家ヲ去リ又ハ戸主カ隠居ヲ爲シタルニ因リ後見人ヲ選任スル必要ヲ生シタルトキハ其  
父、母又ハ後見人ハ遲滞ナク親族會ヲ招集シ又ハ招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

人第一六二條  
第二二六條

第九百六條 後見人ハ一人タルコト要ス

人第一六三條  
第一七八條第  
一七九條第  
二五條第  
二二六條

第九百七條 後見人ハ婦女ヲ除ク外左ノ事由アルニ非サレハ其任務ヲ辭スルコトヲ得ス  
一 軍人トシテ現役ニ服スルコト

- 二 被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ従事スルコト
- 三 自己ヨリ先ニ後見人タルヘキ者ニ付キ本條又ハ次條ニ掲ケタル事由ヲ存ゼシ場合  
ニ於テ其事由カ消滅シタルコト
- 四 禁治産者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シタルコト但配偶者、直系血族及ヒ戸主ハ此  
限ニ在ラス
- 五 此他正當ノ事由

第九百八條 左ニ掲ケタル者ハ後見人タルコトヲ得ス

人第一八〇條  
乃至第一八二  
條第二二六條

- 一 未成年者
- 二 禁治産者及ヒ準禁治産者
- 三 剝奪公權者及ヒ停止公權者
- 四 裁判所ニ於テ免職セラレタル法定代理人又ハ保佐人
- 五 破産者
- 六 被後見人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及ヒ其配偶者並ニ直系血族
- 七 行方ノ知レサル者
- 八 裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘサル事跡、不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡アリト認

人第二一七條  
第二二四條  
第二二五條  
第二二六條  
第二二七條  
第二二八條  
第二二九條  
第三項  
第三項  
第三項  
第三項

第九百九條 前七條ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス  
保佐人又ハ其代表スル者ト準禁治産者トノ利益相反スル行爲ニ付テハ保佐人ハ臨時保佐人ノ選任ヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス

第二款 後見監督人

人第一六九條  
第二項  
人第一七九條  
第一七〇條

第九百十條 後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ後見監督人ヲ指定スルコトヲ得  
第九百十一條 前條ノ規定ニ依リテ指定シタル後見監督人ナキトキハ法定後見人又ハ指定後見人ハ其事務ニ著手スル前親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免職スルコトヲ得

人第一六九條  
第一七〇條

親族會ニ於テ後見人ヲ選任シタルトキハ直チニ後見監督人ヲ選任スルコトヲ要ス  
第九百十二條 後見人就職ノ後後見監督人ノ缺ケタルトキハ後見人ハ遲滞ナク親族會ヲ招集シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス  
第九百十三條 後見人ノ更迭アリタルトキハ親族會ハ後見監督人ヲ改選スルコトヲ要ス但前後見監督人ヲ再選スルコトヲ妨ケス  
新後見人カ親族會ニ於テ選任シタル者ニ非サルトキハ後見監督人ハ遲滞ナク親族會ヲ招

人第一九八條  
乃至第二〇〇條

集シ前項ノ規定ニ依リテ改選ヲ爲サシムルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ後見人ノ行爲ニ付キ之ト連帶シテ其責ニ任ス

第九百十四條 後見人ノ配偶者、直系血族又ハ兄弟姉妹ハ後見監督人タルコトヲ得ス  
第九百十五條 後見監督人ノ職務左ノ如シ

- 一 後見人ノ事務ヲ監督スルコト
- 二 後見人ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滞ナク其後任者ノ任務ニ就クコトヲ促シ若シ後任者ナキトキハ親族會ヲ招集シテ其選任ヲ爲サシムルコト
- 三 急迫ノ事情アル場合ニ於テ必要ナル處分ヲ爲スコト
- 四 後見人又ハ其代表スル者ト被後見人トノ利益相反スル行爲ニ付キ被後見人ヲ代表スルコト

人第一六九條  
第三項

第九百十六條 第六百四十四條第九百七條及ヒ第九百八條ノ規定ハ後見監督人ニ之ヲ準用ス

第三節 後見ノ事務

人第一八三條  
第一八七條

第九百十七條 後見人ハ遲滞ナク被後見人ノ財産ノ調査ニ著手シ一个月内ニ其調査ヲ終ハ  
リ且其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

財産ノ調査及ヒ其目錄ノ調製ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スニ非サレハ其效ナシ  
後見人カ前二項ノ規定ニ從ヒ財産ノ目錄ヲ調製セサルトキハ親族會ハ之ヲ免黜スルコト  
ヲ得

八條一八八條

八條一八八條

第九百十八條 後見人ハ目錄ノ調製ヲ終ハルマテハ急迫ノ必要アル行爲ノミヲ爲ス權限ヲ  
有ス但之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第九百十九條 後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負フトキハ財産ノ調査ニ著  
手スル前ニ之ヲ後見監督人ニ申出ツルコトヲ要ス

後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有スルコトヲ知リテ之ヲ申出テサルトキハ其債權ヲ失  
フ

後見人カ被後見人ニ對シ債務ヲ負フトコトヲ知リテ之ヲ申出テサルトキハ親族會ハ其後見  
人ヲ免黜スルコトヲ得

第九百二十條 前三條ノ規定ハ後見人就職ノ後被後見人カ包括財産ヲ取得シタル場合ニ之  
ヲ準用ス

八條一八四條  
八條一八五條

第九百二十一條 未成年者ノ後見人ハ第八百七十九條乃至第八百八十三條及ヒ第八百八十  
五條ニ定メタル事項ニ付キ親權ヲ行フ父又ハ母ト同一ノ權利義務ヲ有ス但親權ヲ行フ父

又ハ母カ定メタル教育ノ方法及ヒ居所ヲ變更シ、未成年者ヲ懲戒場ニ入レ、營業ヲ許可  
シ、其許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

八條二二七條

第九百二十二條 禁治產者ノ後見人ハ禁治產者ノ資力ニ應シテ其療養看護ヲカムルコトヲ  
要ス

禁治產者ヲ癲癩病院ニ入レ又ハ私宅ニ監置スルト否トハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之ヲ  
定ム

八條一八六條

第九百二十三條 後見人ハ被後見人ノ財産ヲ管理シ又其財産ニ關スル法律行爲ニ付キ被後  
見人ヲ代表ス

第八百二十四條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

八條一九〇條  
八條二〇條  
八條二二七條

第九百二十四條 後見人ハ其就職ノ初ニ於テ親族會ノ同意ヲ得テ被後見人ノ生活、教育又  
ハ療養看護及ヒ財産ノ管理ノ爲メ毎年費スヘキ金額ヲ豫定スルコトヲ要ス

前項ノ豫定額ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但已ムコトヲ得  
サル場合ニ於テ豫定額ヲ超ユル金額ヲ支出スルコトヲ妨ケス

第九百二十五條 親族會ハ後見人及ヒ被後見人ノ資力其他ノ事情ニ依リ被後見人ノ財産中  
ヨリ相當ノ報酬ヲ後見人ニ與フルコトヲ得但後見人カ被後見人ノ配偶者、直系血族又ハ

人第一九〇條

戸主ナルトキハ此限ニ在ラス

百九十六

人第一九一條

第九百二十六條 後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財産管理者ヲ使用スルコトヲ得但第百六條ノ適用ヲ妨ケス

第九百二十七條

親族會ハ後見人就職ノ初ニ於テ後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金

錢カ何程ノ額ニ達セハ之ヲ寄託スヘキカヲ定ムルコトヲ要ス

後見人カ被後見人ノ爲メニ受取リタル金錢カ親族會ノ定メタル額ニ達スルモ相當ノ期間

内ニ之ヲ寄託セサルトキハ其法定利息ヲ拂フコトヲ要ス

第九百二十八條

指定後見人及ヒ選定後見人ハ毎年少クトモ一回被後見人ノ財産ノ狀況ヲ

親族會ニ報告スルコトヲ要ス

人第一九三條  
第一九四條第  
二二九條

第九百二十九條

後見人カ被後見人ニ代ハリテ營業若クハ第十二條第一項ニ掲ケタル行爲

第九百三十條

後見人カ被後見人ノ財産又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ讓受クタルトキハ被後見人ハ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス

人第一九五條  
取三七條第三  
八條

人第一六三條

前項ノ規定ハ第二百一十一條乃至第二百二十六條ノ適用ヲ妨ケス  
第九百三十一條 後見人ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ被後見人ノ財産ヲ貸借スルコトヲ得ス

第九百三十二條

後見人カ其任務ヲ曠クスルトキハ親族會ハ臨時管理人ヲ選任シ後見人ノ責任ヲ以テ後見人ノ財産ヲ管理セシムルコトヲ得

附二〇四條第  
一項第二號

第九百三十三條

親族會ハ後見人ヲシテ被後見人ノ財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保

第九百三十四條

被後見人カ戸主ナルトキハ後見人ハ之ニ代ハリテ其權利ヲ行フ但家族ヲ

第九百三十五條

後見人ハ未成年者ニ代ハリテ親權ヲ行フ但第九百十七條乃至第九百二十一條及ヒ前十條

第九百三十六條

親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサル場合ニ於テハ後見人ハ財産ニ關スル權

第九百三十七條

限ノミヲ有ス

人第一八六條  
第一九七條第  
二〇一條第

第六百四十四條

第八百八十七條、第八百八十九條第二項及ヒ第八百九

民法 第四編 後見 第六章 第三節 後見ノ事務

百九十七

三一九條第一項第五四七條

十二條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用ス

第四節 後見ノ終了

人第二〇五條  
第二〇七條

第九百三十七條 後見人ノ任務カ終了シタルトキハ後見人又ハ其相續人ハ二个月内ニ其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

人第二〇六條

第九百三十八條 後見ノ計算ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲ス

人第二〇八條

後見人ノ更迭アリタル場合ニ於テハ後見人ノ計算ハ親族會ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第九百三十九條 未成年者カ成年ニ達シタル後後見ノ計算ノ終了前ニ其者ト後見人又ハ其相續人トノ間ニ爲シタル契約ハ其者ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得其者カ後見人又ハ其相續人ニ對シテ爲シタル單獨行爲亦同シ

人第二一〇條

第十九條及ヒ第二百一十一條乃至第二百二十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九百四十條 後見人カ被後見人ニ返還スヘキ金額及ヒ被後見人カ後見人ニ返還スヘキ金額ニハ後見ノ計算終了ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス

後見人カ自己ノ爲メニ被後見人ノ金錢ヲ消費シタルトキハ其消費ノ時ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

人第二〇二條  
乃至第二〇四條

第九百四十一條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用ス

人第二一二條

第九百四十二條 第八百九十四條ニ定メタル時効ハ後見人、後見監督人又ハ親族會員ト被後見人トノ間ニ於テ後見ニ關シテ生シタル債權ニ之ヲ準用ス

前項ノ時効ハ第九百三十九條ノ規定ニ依リテ法律行爲ヲ取消シタル場合ニ於テハ其取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第九百四十三條 前條第一項ノ規定ハ保佐人又ハ親族會員ト準禁治產者トノ間ニ之ヲ準用ス

第七章 親族會

人第一七一條  
第一七三條  
第一七七條

第九百四十四條 本法其他ノ法令ノ規定ニ依リ親族會ヲ開クヘキ場合ニ於テハ會議ヲ要スル事件ノ本人、戸主、親族、後見人、後見監督人、保佐人、檢事又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ招集ス

人第一七一條  
第一七四條

第九百四十五條 親族會員ハ三人以上トシ親族其他本人又ハ其家ニ縁故アル者ノ中ヨリ裁判所之ヲ選定ス

人第一八〇條  
乃至第一八二條

後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ親族會員ヲ選定スルコトヲ得

第九百四十六條 遠隔ノ地ニ居住スル者其他正當ノ事由アル者ハ親族會員タルコトヲ辭スルコトヲ得

後見人、後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會員タルコトヲ得ス

第九百八條ノ規定ハ親族會員ニ之ヲ準用ス

第九百四十七條 親族會ノ議事ハ會員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

會員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第九百四十八條 本人、戸主、家ニ在ル父母、配偶者、本家並ニ分家ノ戸主、後見人、後

見監督人及ヒ保佐人ハ親族會ニ於テ其意見ヲ述フルコトヲ得

親族會ノ招集ハ前項ニ掲ケタル者ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第九百四十九條 無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ其者ノ無能力ノ止ムマテ繼續ス此親

族會ノ最初ノ招集ノ場合ヲ除ク外本人、其法定代理人、後見監督人、保佐人又ハ會員之

ヲ招集ス

第九百五十條 親族會ニ缺員ヲ生シタルトキハ會員ハ補缺員ノ選定ヲ裁判所ニ請求スル

コトヲ要ス

第九百五十一條 親族會ノ決議ニ對シテハ一个月内ニ會員又ハ第九百四十四條ニ掲ケタル

者ヨリ其不服ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ得

第九百五十二條 親族會カ決議ヲ爲スコト能ハサルトキハ會員ハ其決議ニ代ハルヘキ裁判

人第一七五條

人第一七一條  
第二項第一七一條  
第二項第一七三條

ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百五十三條 第六百四十四條ノ規定ハ親族會員ニ之ヲ準用ス

### 第八章 扶養ノ義務

第九百五十四條 直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ヲ爲ス義務ヲ負フ

夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊屬ニシテ其家ニ在ル者トノ間亦同シ

第九百五十五條 扶養ノ義務ヲ負フ者數人アル場合ニ於テハ其義務ヲ履行スヘキ者ノ順序

左ノ如シ

第一 配偶者

第二 直系卑屬

第三 直系尊屬

第四 戸主

第五 前條第二項ニ掲ケタル者

第六 兄弟姉妹

直系卑屬又ハ直系尊屬ノ間ニ於テハ其親等ノ最モ近キ者ヲ先ニス前條第二項ニ掲ケタル

直系尊屬間亦同シ

人第二六條第  
二七條

人第二八條

第九百五十六條 同順位ノ扶養義務者數人アルトキハ各其資力ニ應シテ其義務ヲ分擔ス但家ニ在ル者ト家ニ在ラサル者トノ間ニ於テハ家ニ在ル者先ツ扶養ヲ爲スコトヲ要ス  
第九百五十七條 扶養ヲ受クル權利ヲ有スル者數人アル場合ニ於テ扶養義務者ノ資力カ其全員ヲ扶養スルニ足ラサルトキハ扶養義務者ハ左ノ順序ニ從ヒ扶養ヲ爲スコトヲ要ス

第一 直系尊屬

第二 直系卑屬

第三 配偶者

第四 第九百五十四條第二項ニ掲ケタル者

第五 兄弟姉妹

第六 前五號ニ掲ケタル者ニ非サル家族

第九百五十五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九百五十八條 同順位ノ扶養權利者數人アルトキハ各其需要ニ應シテ扶養ヲ受クルコトヲ得

第九百五十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九百五十九條 扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クヘキ者カ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテ生活ヲ爲

人第二六條第  
二七條

スコト能ハサルトキニノミ存在ス自己ノ資産ニ依リテ教育ヲ受クルコト能ハサルトキ亦同シ

兄弟姉妹間ニ在リテハ扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クル必要カ之ヲ受クヘキ者ノ過失ニ因ラスシテ生シタルトキニノミ存在ス但扶養義務者カ戸主ナルトキハ此限ニ在ラス

第九百六十條 扶養ノ程度ハ扶養權利者ノ需要ト扶養義務者ノ身分及ヒ資力トニ依リテ之ヲ定ム

第九百六十一條 扶養義務者ハ其選擇ニ從ヒ扶養權利者ヲ引取リテ之ヲ養ヒ又ハ之ヲ引取ラスシテ生活ノ資料ヲ給付スルコトヲ要ス但正當ノ事由アルトキハ裁判所ハ扶養權利者ノ請求ニ因リ扶養ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

第九百六十二條 扶養ノ程度又ハ方法カ判決ニ因リテ定マリタル場合ニ於テ其判決ノ根據ト爲リタル事情ニ變更ヲ生シタルトキハ當事者ハ其判決ノ變更又ハ取消ヲ請求スルコトヲ得

第九百六十三條 扶養ヲ受クル權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

財第二九條第  
二項取第一六  
九條第三項第  
六第一八條  
訴第六一八條



## 第五編 相續

### 第一章 家督相續

#### 第一節 總則

取第二八六條  
第二八七條

第九百六十四條 家督相續ハ左ノ事由ニ因リテ開始ス

- 一 戸主ノ死亡、隱居又ハ國籍喪失
- 一 戸主カ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ニ因リテ其家ヲ去リタルトキ
- 三 女戸主ノ入夫婚姻又ハ入夫ノ離婚

第九百六十五條 家督相續ハ被相續人ノ住所ニ於テ開始ス

證第一五五條

第九百六十六條 家督相續回復ノ請求權ハ家督相續人又ハ其法定代理人カ相續權侵害ノ事實ヲ知リタル時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス相續開始ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

取第三二〇條

第九百六十七條 相續財産ニ關スル費用ハ其財産中ヨリ之ヲ支辨ス但家督相續人ノ過失ニ因ルモノハ此限ニ在ラス

前項ニ掲ケタル費用ハ遺留分權利者カ贈與ノ減殺ニ因リテ得タル財産ヲ以テ支辨スルコ

人第二〇條

取第二八八條  
第二八九條  
第二九一條乃至  
第二九二條

### 第二節 家督相續人

第九百六十八條 胎兒ハ家督相續ニ付テハ既ニ生マレタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ胎兒カ死體ニテ生マレタルトキハ之ヲ適用セス

第九百六十九條 左ニ掲ケタル者ハ家督相續人タルコトヲ得ス

- 一 故意ニ被相續人又ハ家督相續ニ付キ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル爲メ刑ニ處セラレタル者
- 二 被相續人ノ殺害セラレタルコトヲ知リテ之ヲ告發又ハ告訴セザリシ者但其者ノ是非ノ辨別ナキトキ又ハ殺害者カ自己ノ配偶若クハ直系血族ナリシトキハ此限ニ在ラス
- 三 詐欺又ハ強迫ニ因リ被相續人カ相續ニ關スル遺言ヲ爲シ、之ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ妨ケタル者
- 四 詐欺又ハ強迫ニ因リ被相續人ヲシテ相續ニ關スル遺言ヲ爲サシメ、之ヲ取消サシメ又ハ之ヲ變更セシメタル者
- 五 相續ニ關スル被相續人ノ遺言書ヲ偽造、變造、毀滅又ハ藏匿シタル者

取第二九五條  
第一項

第九百七十條 被相續人ノ家族タル直系卑屬ハ左ノ規定ニ從ヒ家督相續人ト爲ル

- 一 親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス
  - 二 親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス
  - 三 親等ノ同シキ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニス
  - 四 親等ノ同シキ嫡出子、庶子及ヒ私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及ヒ庶子ハ女ト雖モ之ヲ私生子ヨリ先ニス
  - 五 前四號ニ掲ケタル事項ニ付キ相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス
- 第八百三十六條ノ規定ニ依リ又ハ養子縁組ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得シタル者ハ家督相續ニ付テハ其嫡出子タル身分ヲ取得シタル時ニ生マレタルモノト看做ス
- 第九百七十一條 前條ノ規定ハ第七百三十六條ノ適用ヲ妨ケス
- 第九百七十二條 第七百三十七條及ヒ第七百三十八條ノ規定ニ依リテ家族ト爲リタル直系卑屬ハ嫡出子又ハ庶子タル他ノ直系卑屬ナキ場合ニ限り第九百七十條ニ定メタル順序ニ從ヒテ家督相續人ト爲ル
- 第九百七十三條 法定ノ推定家督相續人ハ其姉妹ノ爲メニスル養子縁組ニ因リテ其相續權ヲ害セラルルコトナシ

取第二九五條  
第二項

二百八

第九百七十四條 第九百七十條及第九百七十二條ノ規定ニ依リテ家督相續人タルヘキ者  
カ家督相續ノ開始前ニ死亡シ又ハ相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキ  
ハ其直系卑屬ハ第九百七十條及第九百七十二條ニ定メタル順序ニ從ヒ其者ト同順位ニ  
於テ家督相續人ト爲ル

取第二九六條  
第二九七條

第九百七十五條 法定ノ推定家督相續人ニ付キ左ノ事由アルトキハ被相續人ハ其推定家督  
相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

- 一 被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルコト
- 二 疾病其他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルヘキコト
- 三 家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルコト
- 四 浪費者トシテ進禁治産ノ宣告ヲ受ケ改悛ノ望ナキコト

此他正當ノ事由アルトキハ被相續人ハ親族會ノ同意ヲ得テ其廢除ヲ請求スルコトヲ得

取第二九八條

第九百七十六條 被相續人カ遺言ヲ以テ推定家督相續人ヲ廢除スル意思ヲ表示シタルトキ

ハ遺言執行者ハ其遺言カ效力ヲ生シタル後遲滞ナク裁判所ニ廢除ノ請求ヲ爲スコトヲ要  
ス此場合ニ於テ廢除ハ被相續人ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

取第二九八條  
第二項第三項

第九百七十七條 推定家督相續人廢除ノ原因止ミタルトキハ被相續人又ハ推定家督相續人

ハ廢除ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百七十五條第一項第一號ノ場合ニ於テハ被相續人ハ何時ニテモ廢除ノ取消ヲ請求ス  
ルコトヲ得

前二項ノ規定ハ相續開始ノ後ハ之ヲ適用セス

前條ノ規定ハ廢除ノ取消ニ之ヲ準用ス

第九百七十八條 推定家督相續人ノ廢除又ハ其取消ノ請求アリタル後其裁判確定前ニ相續  
カ開始シタルトキハ裁判所ハ親族、利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ戶主權ノ行使及ヒ  
遺産ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得廢除ノ遺言アリタルトキ亦同シ

裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ第二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第九百七十九條 法定ノ推定家督相續人ナキトキハ被相續人ハ家督相續人ヲ指定スルコト  
ヲ得此指定ハ法定ノ推定家督相續人アルニ至リタルトキハ其效力ヲ失フ

家督相續人ノ指定ハ之ヲ取消スコトヲ得

前二項ノ規定ハ死亡又ハ隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニノミ之ヲ適用ス

第九百八十條 家督相續人ノ指定及ヒ其取消ハ之ヲ戶籍吏ニ届出ツルニ因リテリテ其效  
力ヲ生ス

取第三〇〇條

取第三〇〇條

二百十

第九百八十一條 被相続人カ遺言ヲ以テ家督相續人ノ指定又ハ其取消ヲ爲ス意思ヲ表示シタルトキハ遺言執行者ハ其遺言カ效力ヲ生シタル後遲滞ナク之ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス此場合ニ於テ指定又ハ其取消ハ被相続人ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

取第三〇一條  
第三〇二條  
第三〇四條

第九百八十二條 法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合ニ於テ其家ニ被相続人ノ父アルトキハ父、父アラサルトキ又ハ父カ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ母、父母共ニアラサルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキ親族會ハ左ノ順序ニ從ヒ家督相續人ヲ選定ス

第一 配偶者但家女ナルトキ

第二 兄弟

第三 姉妹

第四 第一號ニ該當セサル配偶者

第五 兄弟姉妹ノ直系卑屬

第九百八十三條 家督相續人ヲ選定スヘキ者ハ正當ノ事由アル場合ニ限り裁判所ノ許可ヲ得テ前條ニ掲ケタル順序ヲ變更シ又ハ選定ヲ爲ササルコトヲ得

取第三〇三條

第九百八十四條 第九百八十二條ノ規定ニ依リテ家督相續人タル者ナキトキハ家ニ在ル直系

系尊屬中親等ノ最モ近キ者家督相續人ト爲ル但親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニ

ス

取第三〇五條

第九百八十五條 前條ノ規定ニ依リテ家督相續人タル者ナキトキハ家族會ハ被相続人ノ家族分家ノ戸主又ハ本家若クハ分家ノ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定ス

前項ニ掲ケタル者ノ中ニ家督相續人タルヘキ者ナキトキハ親族會ハ他人ノ中ヨリ之ヲ選定ス

親族會ハ正當ノ事由アル場合ニ限り前二項ノ規定ニ拘ハラヌ裁判所ノ許可ヲ得テ他人ヲ選定スルコトヲ得

### 第三節 家督相續ノ效力

取第二九四條  
第三〇〇條

第九百八十六條 家督相續人ハ相續開始ノ時ヨリ前戸主ノ有セシ權利義務ヲ承繼ス但前戸主ノ一身ニ專屬セルモノハ此限ニ在ラス

取第三九四條

第九百八十七條 系譜、祭具及ヒ墳墓ノ所有權ハ家督相續ノ特權ニ屬ス

第九百八十八條 隱居者及ヒ入夫婚姻ヲ爲ス女戸主ハ確定日附アル證書ニ依リテ其財産ヲ

留保スルコトヲ得但家督相續人ノ遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

取第三〇九條

第九百八十九條 隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ前戸主ノ債權者ハ其前

戸主ニ對シテ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得

入夫婚姻ノ取消又ハ入夫ノ離婚ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ入夫カ戸主タリシ間ニ負擔シタル債務ノ辨濟ハ其入夫ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ家督相續人ニ對スル請求ヲ妨ケス

第九百九十條 國籍喪失者ノ家督相續人ハ戸主權及ヒ家督相續ノ特權ニ屬スル權利ノミヲ承繼ス但遺留分及ヒ前戸主カ特ニ指定シタル相續財產ヲ承繼スルコトヲ妨ケス  
國籍喪失者カ日本人ニ非サレハ享有スルコトヲ得サル權利ヲ有スル場合ニ於テ一年內ニ之ヲ日本人ニ讓渡ササルトキハ其權利ハ家督相續人ニ歸屬ス

第九百九十一條 國籍喪失ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ前戸主ノ債權者ハ家督相續人ニ對シテハ其受ケタル財產ノ限度ニ於テノミ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得

### 第二章 遺產相續

#### 第一節 總則

第九百九十二條 遺產相續ハ家族ノ死亡ニ因リテ開始ス

第九百九十三條 第九百六十五條乃至第九百六十八條ノ規定ハ遺產相續ニ之ヲ準用ス

#### 第二節 遺產相續人

取第九四五條  
第三一四條

第九百九十四條 被相續人ノ直系卑屬ハ左ノ規定ニ從ヒ遺產相續人ト爲ル

一 親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス

二 親等ノ同シキ者ハ同順位ニ於テ遺產相續人ト爲ル

取第九五條  
第二項

第九百九十五條 前條ノ規定ニ依リ遺產相續人タルヘキ者カ相續ノ開始前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬ハ前條ノ規定ニ從ヒ其者ト同順位ニ於テ遺產相續人ト爲ル

取第三一三條

第九百九十六條 前二條ノ規定ニ依リテ遺產相續人タルヘキ者ナキ場合ニ於テ遺產相續ヲ爲スヘキ者ノ順位左ノ如シ

第一 配偶者

第二 直系尊屬

第三 戸主

前項第二號ノ場合ニ於テハ第九百九十四條ノ規定ヲ準用ス

第九百九十七條 左ニ掲ケタル者ハ遺產相續人タルコトヲ得ス

取第二八八條  
第二八九條  
第二九一條乃至  
第二九二條

一 故意ニ被相續人又ハ遺產相續ニ付キ先順位若クハ同順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル爲メ刑ニ處セラレタル者

取第九六條  
及第九七條

二 第九百六十九條第二號乃至第五號ニ掲ケタル者  
第九百九十八條 遺留分ヲ有スル推定遺産相續人カ被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ  
重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキハ被相續人ハ其推定遺産相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スル  
コトヲ得

取第九八條

第九百九十九條 被相續人ハ何時ニテモ推定遺産相續人廢除ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコ  
トヲ得

第一千條 第九百七十六條及ヒ第九百七十八條ノ規定ハ推定遺産相續人ノ廢除及ヒ其取消  
ニ之ヲ準用ス

### 第三節 遺産相續ノ效力

#### 第一款 總則

第一千一條 遺産相續人ハ相續開始ノ時ヨリ被相續人ノ財産ニ屬セシ一切ノ權利義務ヲ承繼  
ス但被相續人ノ一身ニ專屬セシモノハ此限ニ在ラス

第一千二條 遺産相續人數人アルトキハ相續財産ハ其共有ニ屬ス

第一千三條 各共同相續人ハ其相續分ニ應シテ被相續人ノ權利義務ヲ承繼ス

#### 第二款 相續分

取第九五條  
第三一四條

第一千四條 同順位ノ相續人數人アルトキハ其各自ノ相續分ハ相均シキモノトス但直系卑屬  
數人アルトキハ庶子及ヒ私生子ノ相續分ハ嫡出子ノ相續分ノ二分ノ一トス

第一千五條 第九百九十五條ノ規定ニ依リテ相續人タル直系卑屬ノ相續分ハ其直系尊屬カ受  
クヘカリシモノニ同シ但直系卑屬數人アルトキハ其各自ノ直系尊屬カ受クヘカリシ部分  
ニ付キ前條ノ規定ニ從ヒテ其相續分ヲ定ム

第一千六條 被相續人ハ前二條ノ規定ニ拘ハラズ遺言ヲ以テ共同相續人ノ相續分ヲ定メ又ハ  
之ヲ定ムルコトヲ第三者ニ委託スルコトヲ得但被相續人又ハ第三者ハ遺留分ニ關スル規  
定ニ違反スルコトヲ得ス

被相續人カ共同相續人中ノ一人若クハ數人ノ相續分ノミヲ定メ之ヲ定メシメタルトキハ  
他ノ共同相續人ノ相續分ハ前二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第一千七條 共同相續人中被相續人ヨリ遺贈ヲ受ク又ハ婚姻、養子縁組、分家、廢絶家再興ノ  
爲メ若クハ生計ノ資本トシテ贈與ヲ受ケタル者アルトキハ被相續人カ相續開始ノ時ニ於  
テ有セシ財産ノ價額ニ其贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヲ相續財産ト看做シ前三條ノ規定ニ  
依リテ算定シタル相續分ノ中ヨリ其遺贈又ハ贈與ノ價額ヲ控除シ其殘額ヲ以テ其者ノ相  
續分トス

遺贈又ハ贈與ノ價額カ相續分ノ價額ニ等シク又ハ之ニ超ユルトキハ受遺者又ハ受贈者ハ其相續分ヲ受クルコトヲ得ス

被相續人カ前二項ノ規定ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ其意思表示ハ遺留分ニ關スル規定ニ反モサル範圍内ニ於テ其效力ヲ有ス

第一千八條 前條ニ掲ケタル贈與ノ價額ハ受贈者ノ行為ニ因リ其目的タル財産カ滅失シ又ハ其價格ノ増減アリタルトキト雖モ相續開始ノ當時仍ホ原狀ニテ存スルモノト看做シテ之ヲ定ム

第一千九條 共同相續人ノ一人カ分割前ニ其相續分ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ他ノ共同相續人ハ其價額及ヒ費用ヲ償還シテ其相續分ヲ讓受クルコトヲ得  
前項ニ定メタル權利ハ一个月内ニ之ヲ行使スルコトヲ要ス

第三款 遺産ノ分割

第一千十條 被相續人ハ遺言ヲ以テ分割ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ定ムルコトヲ第三者ニ委託スルコトヲ得

第一千十一條 被相續人ハ遺言ヲ以テ相續開始ノ時ヨリ五年ヲ超エサル期間内分割ヲ禁スルコトヲ得

財第三九條取  
第四〇七條取

取第一五五條  
取第一七七條  
取第一八八條

第一千十二條 遺産ノ分割ハ相續開始ノ時ニ遡リテ其効力ヲ生ス

第一千十三條 各共同相續人ハ相續開始前ヨリ存スル事由ニ付キ他ノ共同相續人ニ對シ賣主ト同シク其相續分ニ應シテ擔保ノ責ニ任ス

第一千十四條 各共同相續人ハ其相續分ニ應シ他ノ共同相續人カ分割ニ因リテ受ケタル債權ニ付キ分割ノ當時ニ於ケル債務者ノ資力ヲ擔保ス

辨濟期ニ在ラサル債權及ヒ停止條件附債權ニ付テハ各共同相續人ハ辨濟ヲ爲スヘキ時ニ於ケル債務者ノ資力ヲ擔保ス

第一千十五條 擔保ノ責ニ任スル共同相續人中償還ヲ爲ス資力ナキ者アルトキハ其償還スルコト能ハサル部分ハ求償者及ヒ他ノ資力アル者各其相續分ニ應シテ之ヲ分擔ス但求償者ニ過失アルトキハ他ノ共同相續人ニ對シテ分擔ヲ請求スルコトヲ得ス

第一千十六條 前三條ノ規定ハ被相續人カ遺言ヲ以テ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ヲ適用セス

第三章 相續ノ承認及ヒ拋棄

第一節 總則

第一千十七條 相續人カ自己ノ爲メニ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三个月内ニ

取第三一七條  
第三一八條

單純若クハ限定ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

相續人ハ承認又ハ拋棄ヲ爲ス前ニ相續財産ノ調査ヲ爲スコトヲ得

第一千八百條 相續人カ承認又ハ拋棄ヲ爲サスシテ死亡シタルトキハ前條第一項ノ期間ハ其

者ノ相續人カ自己ノ爲メニ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第一千九條 相續人カ無能力者ナルトキハ第一千七百七條第一項ノ期間ハ其法定代理人カ無能

力者ノ爲メニ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第一千二十條 法定家督相續人ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス但第九百八十四條ニ掲ケタル者ハ此

限ニ在ラス

第一千二十一條 相續人ハ其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ヲ管理スルコト

ヲ要ス但承認又ハ拋棄ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ何時ニテモ相續財産ノ保存ニ必要ナル處分ヲ

命スルコトヲ得

裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ第二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第一千二十二條 承認及ヒ拋棄ハ第一千七百七條第一項ノ期間内ト雖モ之ヲ取消スコトヲ得ス

取第三二七條  
第三二八條

前項ノ規定ハ第一編及ヒ前編ノ規定ニ依リテ承認又ハ拋棄ノ取消ヲ爲スコトヲ妨ケス但其取消權ハ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ六ヶ月間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス承認又ハ拋棄ノ時ヨリ十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

### 第二節 承認

#### 第一款 單純承認

第一千二十三條 相續人カ單純承認ヲ爲シタルトキハ無限ニ被相續人ノ權利義務ヲ承繼ス

第一千二十四條 左ニ掲ケタル場合ニ於テハ相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモノト看做ス

- 一 相續人カ相續財産ノ全部又ハ一部ヲ處分シタルトキ但保存行爲及ヒ第六百二條ニ定メタル期間ヲ超エサル貸貸ヲ爲スハ此限ニ在ラス
- 二 相續人カ第一千七百七條第一項ノ期間内ニ限定承認又ハ拋棄ヲ爲サザリシトキ
- 三 相續人カ限定承認又ハ拋棄ヲ爲シタル後ト雖モ相續財産ノ全部若クハ一部ヲ隱匿シ、私ニ之ヲ消費シ又ハ惡意ヲ以テ之ヲ財産目錄中ニ記載セザリシトキ但其相續人カ拋棄ヲ爲シタルニ因リテ相續人ト爲リタル者カ承認ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス

取第三二二條  
取第三二四條

#### 第二款 限定承認



取第三二五條

二百二十

第一千二十五條 相続人ハ相続ニ因リテ得タル財産ノ限度ニ於テノミ被相続人ノ債務及ヒ遺贈ヲ辨濟スヘキコトヲ留保シテ承認ヲ爲スコトヲ得

取第三二六條

第一千二十六條 相続人カ限定承認ヲ爲サント欲スルトキハ第一千二十七條第一項ノ期間内ニ財産目録ヲ調製シテ之ヲ裁判所ニ提出シ限定承認ヲ爲ス旨ヲ申述スルコトヲ要ス  
第一千二十七條 相続人カ限定承認ヲ爲シタルトキハ其被相続人ニ對シテ有セシ權利義務ハ消滅セサリシモノト看做ス

取第三二八條

第一千二十八條 限定承認者ハ其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相続財産ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス

第六百四十五條、第六百四十六條、第六百五十條第一項、第二項及ヒ第一千二十條第二項、第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千二十九條 限定承認者ハ限定承認ヲ爲シタル後五日内ニ一切ノ相続債權者及ヒ受遺者ニ對シ限定承認ヲ爲シタルコト及ヒ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千三十條 限定承認者ハ前條第一項ノ期間満了前ニハ相続債權者及ヒ受遺者ニ對シテ

取第三三一條  
乃至第三三五條

辨濟ヲ拒ムコトヲ得

第一千三十一條 第一千二十九條第一項ノ期間満了ノ後ハ限定承認者ハ相続財産ヲ以テ其期間内ニ申出テタル債權者其他知レタル債權者ニ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス但優先權ヲ有スル債權者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第一千三十二條 限定承認者ハ辨濟期ニ至ラサル債權ト雖モ前條ノ規定ニ依リテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ハ裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

取第三三一條  
乃至第三三五條

第一千三十三條 限定承認者ハ前二條ノ規定ニ依リテ各債權者ニ辨濟ヲ爲シタル後ニ非サレハ受遺者ニ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第一千三十四條 前三條ノ規定ニ從ヒテ辨濟ヲ爲スニ付キ相続財産ノ賣却ヲ必要トスルトキハ限定承認者ハ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ要ス但裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒテ相続財産ノ全部又ハ一部ノ價額ヲ辨濟シテ其競賣ヲ止ムルコトヲ得

第一千三十五條 相続債權者及ヒ受遺者ハ自己ノ費用ヲ以テ相続財産ノ競賣又ハ鑑定ニ参加スルコトヲ得此場合ニ於テハ第二百六十條第二項ノ規定ヲ準用ス

取第三三一條  
乃至第三三五條

第三十六條 限定承認者カ第一千二十九條ニ定メタル公告若クハ催告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ同條第一項ノ期間内ニ或債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲シタルニ因リ他ノ債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス第一千三十條乃至第一千三十三條ノ規定ニ違反シテ辨濟ヲ爲シタルトキ亦同シ前項ノ規定ハ情ヲ知リテ不當ニ辨濟ヲ受ケタル債權者又ハ受遺者ニ對スル他ノ債權者又ハ受遺者ノ求償ヲ妨ケス

取第三三〇條

第七百二十四條ノ規定ハ前二項ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス  
第一千三十七條 第一千二十九條第一項ノ期間内ニ申出テサリシ債權者及ヒ受遺者ニシテ限定承認者ニ知レサリシ者ハ殘餘財産ニ付テノミ其權利ヲ行フコトヲ得但相續財産ニ付キ特別擔保ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第三節 拋棄

取第三三六條

第三十八條 相續ノ拋棄ヲ爲サント欲スル者ハ其旨ヲ裁判所ニ申述スルコトヲ要ス  
第三十九條 拋棄ハ相續開始ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス  
數人ノ遺産相續人アル場合ニ於テ其一人カ拋棄ヲ爲シタルトキハ其相續分ハ他ノ相續人ノ相續分ニ應シテ之ニ歸屬ス

第四十條 相續ノ拋棄ヲ爲シタル者ハ其拋棄ニ因リテ相續人ト爲リタル者カ相續財産ノ管理ヲ始ムルコトヲ得ルマテ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ其財産ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス  
第六百四十五條、第六百四十六條、第六百五十條第一項、第二項及ヒ第一千二十一條第二項、第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四章 財産ノ分離

第四十一條 相續債權者又ハ受遺者ハ相續開始ノ時ヨリ三個月内ニ相續人ノ財産中ヨリ相續財産ヲ分離センコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得其期間滿了ノ後ト雖モ相續財産カ相續人ノ固有財産ト混合セサル間亦同シ  
裁判所カ前項ノ請求ニ因リテ財産ノ分離ヲ命シタルトキハ其請求ヲ爲シタル者ハ五日内ニ他ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ財産分離ノ命令アリタルコト及ヒ一定ノ期間内ニ配當加入ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス  
第四十二條 財産分離ノ請求ヲ爲シタル者及ヒ前條第二項ノ規定ニ因リテ配當加入ノ申出ヲ爲シタル者ハ相續財産ニ付キ相續人ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受ク  
第四十三條 財産分離ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ相續財産ノ管理ニ付キ必要ナル處

分ヲ命スルコトヲ得

二百二十四

裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ第二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用ス  
第千四十四條 相續人ハ單純承認ヲ爲シタル後ト雖モ財産分離ノ請求アリタルトキハ爾後  
其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ノ管理ヲ爲スコトヲ要ス但裁判所ニ於  
テ管理人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス  
第六百四十五條乃至第六百四十七條及ヒ第六百五十條第一項、第二項ノ規定ハ前項ノ場  
合ニ之ヲ準用ス

第千四十五條 財産ノ分離ハ不動産ニ付テハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對  
抗スルコトヲ得ス

第千四十六條 第三百四條ノ規定ハ財産分離ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千四十七條 相續人ハ第千四十一條第一項及ヒ第二項ノ期間満了前ニハ相續債權者及ヒ  
受遺者ニ對シテ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

財産分離ノ請求アリタルトキハ相續人ハ第千四十一條第二項ノ期間満了ノ後相續財産ヲ  
以テ財産分離ノ請求又ハ配當加入ノ申出ヲ爲シタル債權者及ヒ受遺者ニ各其債權ノ割合  
ニ應シテ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス但優先權ヲ有スル債權者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第千三十二條乃至第千三十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千四十八條 財産分離ノ請求ヲ爲シタル者及ヒ配當加入ノ申出ヲ爲シタル者ハ相續財産  
ヲ以テ全部ノ辨濟ヲ受クルコト能ハサリシ場合ニ限り相續人ノ固有財産ニ付キ其權利ヲ  
行フコトヲ得此場合ニ於テハ相續人ノ債權者ハ其者ニ先チテ辨濟ヲ受クルコトヲ得

第千四十九條 相續人ハ其固有財産ヲ以テ相續債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ之ニ  
相當ノ擔保ヲ供シテ財産分離ノ請求ヲ防止シ又ハ其效力ヲ消滅セシムルコトヲ得但相續  
人ノ債權者カ之ニ因リテ損害ヲ受クヘキコトヲ證明シテ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在  
ラス

第千五十條 相續人カ限定承認ヲ爲スコトヲ得ル間又ハ相續財産カ相續人ノ固有財産ト混  
合セサル間ハ其債權者ハ財産分離ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三百四條、第千二十七條、第千二十九條乃至第千三十六條、第千四十三條乃至第千四  
十五條及ヒ第千四十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス第千二十九條ニ定メタル公告  
及ヒ催告ハ財産分離ノ請求ヲ爲シタル債權者之ヲ爲スコトヲ要ス

## 第五章 相續人ノ曠缺

第千五十一條 相續人アルコト分明ナラサルトキハ相續財産ハ之ヲ法人トス

取第三四二條  
第三四三條

二百二十六

第一千五十二條 前條ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ相續財産ノ  
管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

裁判所ハ遲滯ナク管理人ノ選任ヲ公告スルコトヲ要ス

第一千五十三條 第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ相續財産ノ管理人ニ之ヲ準用ス

第一千五十四條 管理人ハ相續債權者又ハ受遺者ノ請求アルトキハ之ニ相續財産ノ狀況ヲ報  
告スルコトヲ要ス

取第三四四條  
第三四五條  
第三四六條  
取第三四五條

取第三四七條

第一千五十五條 相續人アルコト分明ナルニ至リタルトキハ法人ハ存立セザリシモノト看做  
ス但管理人カ其權限内ニ於テ爲シタル行爲ノ効力ヲ妨クス

取第三四七條

第一千五十六條 管理人ノ代理權ハ相續人カ相續ノ承認ヲ爲シタル時ニ於テ消滅ス

前項ノ場合ニ於テハ管理人ハ遲滯ナク相續人ニ對シテ管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス

取第三四四條  
第三四五條  
第三四六條  
取第四項乃至第  
三四六條

第一千五十七條 第一千五十二條第二項ニ定メタル公告アリタル後二ヶ月内ニ相續人アルコト  
分明ナルニ至ラサルトキハ管理人ハ遲滯ナク一切ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ一定ノ

期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコト  
ヲ得ス第七十九條第三項、第三項及ヒ第一千三十條乃至第一千三十七條ノ規定ハ前項ノ場合  
ニ之ヲ準用ス但第一千四十四條但書ノ規定ハ此限ニ在ラス

取第三四八條

第一千五十八條 前條第一項ノ期間満了ノ後仍ホ相續人アルコト分明ナラサルトキハ裁判所

ハ管理人又ハ檢事ノ請求ニ因リ相續人アラハ一定ノ期間内ニ其權利ヲ主張スヘキ旨ヲ公

告スルコトヲ要ス但其期間ハ一年ヲ下ルコトヲ得ス

取第三二五條  
第三二六條  
第三二八條

第一千五十九條 前條ノ期間内ニ相續人タル權利ヲ主張スル者ナキトキハ相續財産ハ國庫ニ

歸屬ス此場合ニ於テハ第一千五十六條第二項ノ規定ヲ準用ス

相續債權者及ヒ受遺者ハ國庫ニ對シテ其權利ヲ行フコトヲ得ス

## 第六章 遺言

### 第一節 總則

取第三六八條

第一千六十條 遺言ハ本法ニ定メタル方式ニ從フニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

取第三五七條

第一千六十一條 滿十五年ニ達シタル者ハ遺言ヲ爲スコトヲ得

第一千六十二條 第四條、第九條、第十二條及ヒ第十四條ノ規定ハ遺言ニハ之ヲ適用セス

第一千六十三條 遺言者ハ遺言ヲ爲ス時ニ於テ其能力ヲ有スルコトヲ要ス

第一千六十四條 遺言者ハ包括又ハ特定ノ名義ヲ以テ其財産ノ全部又ハ一部ヲ處分スルコト  
ヲ得但遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

取第三五二條  
第三八四條  
第三九〇條

第一千六十五條 第九百六十八條及ヒ第九百六十九條ノ規定ハ受遺者ニ之ヲ準用ス

第六百六十六條 被後見人カ後見ノ計算終了前ニ後見人又ハ其配偶者若クハ直系卑屬ノ利益ト爲ルヘキ遺言ヲ爲シタルトキハ其遺言ハ無効トス  
前項ノ規定ハ直系血族、配偶者又ハ兄弟姉妹カ後見人タル場合ニハ之ヲ適用セス

第二節 遺言ノ方式

第一款 普通方式

第六百六十八條

第六百六十七條 遺言ハ自筆證書、公正證書又ハ秘密證書ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス但特別方式ニ依ルコトヲ許ス場合ハ此限ニ在ラス

第六百六十九條

第六百六十八條 自筆證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ遺言者其全文、日附及ヒ氏名ヲ自書シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

自筆證書中ノ挿入、削除其他ノ變更ハ遺言者其場所ヲ指示シ之ヲ變更シタル旨ヲ附記シテ特ニ之ニ署名シ且其變更ノ場所ニ捺印スルニ非サレハ其効ナシ

第六百六十九條 公正證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス

- 一 證人二人以上ノ立會アルコト
- 二 遺言者カ遺言ノ趣旨ヲ公證人ニ口授スルコト
- 三 公證人カ遺言者ノ口述ヲ筆記シ之ヲ遺言者及ヒ證人ニ讀聞カスコト

四 遺言者及ヒ證人カ筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後各自之ニ署名、捺印スルコト但遺言者カ署名スルコト能ハサル場合ニ於テハ公證人其事由ヲ附記シテ署名ニ代フルコトヲ得

五 公證人カ其證書ハ前四號ニ掲ケタル方式ニ從ヒテ作りタルモノナル旨ヲ附記シテ之ニ署名、捺印スルコト

第六百七十條

第六百七十條 秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス

- 一 遺言者カ其證書ニ署名、捺印スルコト
- 二 遺言者カ其證書ヲ封シ證書ニ用井タル印章ヲ以テ之ニ封印スルコト
- 三 遺言者カ公證人一人及ヒ證人二人以上ノ前ニ封書ヲ提出シテ自己ノ遺言書ナル旨及ヒ其筆者ノ氏名、住所ヲ申述スルコト
- 四 公證人カ其證書提出ノ日附及ヒ遺言者ノ申述ヲ封紙ニ記載シタル後遺言者及ヒ證人ト共ニ之ニ署名、捺印スルコト

第六百六十八條第二項ノ規定ハ秘密證書ニ依ル遺言ニ之ヲ準用ス

第六百七十一條

第六百七十一條 秘密證書ニ依ル遺言ハ前條ニ定メタル方式ニ缺クルモノアルモ第六百六十八條ノ方式ヲ具備スルトキハ自筆證書ニ依ル遺言トシテ其効力ヲ有ス

第一千七十二條 言語ヲ發スルコト能ハサル者カ祕密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ遺言者ハ公證人及ヒ證人ノ前ニ於テ其證書ハ自己ノ遺言書ナル旨並ニ其筆者ノ氏名、住所ヲ封紙ニ自書シテ第一千七十條第一項第三號ノ申述ニ代フルコトヲ要ス  
公證人ハ遺言カ前項ニ定メタル方式ヲ踐ミタル旨ヲ封紙ニ記載シテ申述ノ記載ニ代フルコトヲ要ス

取第三五七條  
第三號

第一千七十三條 禁治産者カ本心ニ復シタル時ニ於テ遺言ヲ爲スニハ醫師二人以上ノ立會アルコトヲ要ス

遺言ニ立會ヒタル醫師ハ遺言者カ遺言ヲ爲ス時ニ於テ心神喪失ノ狀況ニ在ラサリシ旨ヲ遺言書ニ附記シテ之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス但祕密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ其封紙ニ右ノ記載及ヒ署名、捺印ヲ爲スコトヲ要ス

取第三七三條

第一千七十四條 左ニ掲ケタル者ハ遺言ノ證人又ハ立會人タルコトヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 禁治産者及ヒ準禁治産者
- 三 剝奪公權者及ヒ停止公權者
- 四 遺言者ノ配偶者

取第三六八條

五 推定相続人、受遺者及ヒ其配偶者並ニ直系血族

六 公證人ト家ヲ同シクスル者及ヒ公證人ノ直系血族並ニ筆生、雇人

第一千七十五條 遺言ハ二人以上同一ノ證書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二款 特別方式

第一千七十六條 疾病其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル者カ遺言ヲ爲サント欲スルトキハ證人三人以上ノ立會ヲ以テ其一人ニ遺言ノ趣旨ヲ口授シテ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其口授ヲ受ケタル者之ヲ筆記シテ遺言者及ヒ他ノ證人ニ讀聞カセ各證人其筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス  
前項ノ規定ニ依リテ爲シタル遺言ハ遺言ノ日ヨリ二十日內ニ證人ノ一人又ハ利害關係人ヨリ裁判所ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非サレハ其效ナシ

取第三七六條

第一千七十七條 傳染病ノ爲メ行政處分ヲ以テ交通ヲ遮斷シタル場所ニ在ル者ハ警察官一人及ヒ證人一人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

取第三七四條  
第三七五條

第一千七十八條 從軍中ノ軍人及ヒ軍屬ハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得若シ將校及ヒ相當官カ其場所ニ在ラサルトキハ準士官又ハ下士

一人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

從軍中ノ軍人又ハ軍屬カ疾病又ハ傷痕ノ爲メ病院ニ在ルトキハ其院ノ醫師ヲ以テ前項ニ揭ケタル將校又ハ相當官ニ代フルコトヲ得

第一千七十九條 從軍中疾病 傷痕其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル軍人及ヒ軍屬ハ證人二人以上ノ立會ヲ以テ口頭ニテ遺言ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル遺言ハ證人其趣旨ヲ筆記シテ之ニ署名、捺印シ且證人一人又ハ利害關係人ヨリ遲滯ナシ理事又ハ主理ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非サレハ其效ナシ第一千七十六條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千八十條 艦船中ニ在ル者ハ軍艦及ヒ海軍所屬ノ船舶ニ於テハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人以上其他ノ船舶ニ於テハ船長又ハ事務員一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ將校又ハ相當官カ其艦船中ニ在ラサルトキハ準士官又ハ下士一人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一千八十一條 第一千七十九條ノ規定ハ艦船遭難ノ場合ニ之ヲ準用ス但海軍ノ所屬ニ非サル船舶中ニ在ル者カ遺言ヲ爲シタル場合ニ於テハ其確認ハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

取第三七七條  
第三七九條

ス

取第三七九條

第一千八十二條 第一千七十七條、第一千七十八條及ヒ第一千八十條ノ場合ニ於テハ遺言者、筆者、立會人及ヒ證人ハ各自遺言書ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

第一千八十三條 第一千七十七條乃至第一千八十一條ノ場合ニ於テ署名又ハ捺印スルコト能ハサル者アルトキハ立會人又ハ證人ハ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第一千八十四條 第一千六十八條第二項及ヒ第一千七十三條乃至第一千七十五條ノ規定ハ前八條ノ規定ニ依ル遺言ニ之ヲ準用ス

第一千八十五條 前九條ノ規定ニ依リテ爲シタル遺言ハ遺言者カ普通方式ニ依リテ遺言ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル時ヨリ六個月間生存スルトキハ其效ナシ

第一千八十六條 日本ノ領事ノ駐在スル地ニ在ル日本人カ公正證書又ハ秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲サント欲スルトキハ公證人ノ職務ハ領事之ヲ行フ

第三節 遺言ノ效力

第一千八十七條 遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其效力ヲ生ス

遺言ニ停止條件ヲ附シタル場合ニ於テ其條件カ遺言者ノ死亡後ニ成就シタルトキハ遺言ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ス

取第三九〇條  
第一項乃至第  
二項

第一千八十八條 受遺者ハ遺言者ノ死亡後何時ニテモ遺贈ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得  
遺贈ノ拋棄ハ遺言者ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第一千八十九條 遺贈義務者其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ遺贈ノ承認又  
ハ拋棄ヲ爲スヘキ旨ヲ受遺者ニ催告スルコトヲ得若シ受遺者カ其期間内ニ遺贈義務者ニ  
對シテ其意思ヲ表示セサルトキハ遺贈ヲ承認シタルモノト看做ス

第一千九十條 受遺者カ遺贈ノ承認又ハ拋棄ヲ爲サシテ死亡シタルトキハ其相續人ハ自  
己ノ相續權ノ範圍内ニ於テ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思  
ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千九十一條 遺贈ノ承認及ヒ拋棄ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第一千九十二條第二項ノ規定ハ遺贈ノ承認及ヒ拋棄ニ之ヲ準用ス

取第三九〇條  
第一項

第一千九十二條 包括受遺者ハ遺産相續人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第一千九十三條 受遺者ハ遺贈ヲ辨濟期ニ至ラサル間ハ遺贈義務者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請  
求スルコトヲ得停止條件附遺贈ニ付キ其條件ノ成否未定ノ間亦同シ

第一千九十四條 受遺者ハ遺贈ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ル時ヨリ果實ヲ取得ス但遺言者カ  
其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

取第三九二條

取第三九三條  
第二項第三項

第一千九十五條 遺贈義務者カ遺言者ノ死亡後遺贈ノ目的物ニ付キ費用ヲ出ダシタルトキハ  
第二百九十九條ノ規定ヲ準用ス  
果實ヲ收取スル爲メニ出ダシタル通常ノ必要費ハ果實ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ其償  
還ヲ請求スルコトヲ得

人第二條取第  
四〇四條

第一千九十六條 遺贈ハ遺言者ノ死亡前ニ受遺者カ死亡シタルトキハ其效力ヲ生セス  
停止條件附遺贈ニ付テハ受遺者カ其條件ノ成就前ニ死亡シタルトキ亦同シ但遺言者カ其  
遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

取第四〇五條

第一千九十七條 遺贈カ其效力ヲ生セサルトキ又ハ拋棄ニ因リ其效力ナキニ至リタルトキハ  
受遺者カ受クヘカリシモノハ相續人ニ歸屬ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタ  
ルトキハ其意思ニ從フ

第一千九十八條 遺贈ハ其目的タル權利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ相續財産ニ屬セサルトキ  
ハ其效力ヲ生セス但其權利カ相續財産ニ屬セサルコトアルニ拘ハラズ之ヲ以テ遺贈ノ目  
的ト爲シタルモノト認ムヘキトキハ此限ニ在ラス

第一千九十九條 相續財産ニ屬セサル權利ヲ目的トスル遺贈カ前條但書ノ規定ニ依リテ有效  
ナルトキハ遺贈義務者ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ受遺者ニ移轉スル義務ヲ負フ若シ之ヲ取



得スルコト能ハサルカ又ハ之ヲ取得スルニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキハ其價額ヲ辨償スルコトヲ要ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千百條 不特定物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ受遺者カ追奪ヲ受ケタルトキハ遺贈義務者ハ之ニ對シテ賣主ト同シク擔保ノ責ニ任ス  
前項ノ場合ニ於テ物ニ瑕疵アリタルトキハ遺贈義務者ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコトヲ要ス

第一千百一條 遺言者カ遺贈ノ目的物ノ滅失若クハ變造又ハ其占有ノ喪失ニ因リ第三者ニ對シテ價金ヲ請求スル權利ヲ有スルトキハ其權利ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

遺贈ノ目的物カ他ノ物ト附合又ハ混和シタル場合ニ於テ遺言者カ第二百四十三條乃至第二百四十五條ノ規定ニ依リ合成物又ハ混和物ノ單獨所有者又ハ共有者ト爲リタルトキハ其全部ノ所有權又ハ共有權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

第一千百二條 遺贈ノ目的タル物又ハ權利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ受遺者ハ遺贈義務者ニ對シ其權利ヲ消滅セシムヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得ス但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第一千百三條 債權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ遺言者カ辨濟ヲ受ケ且其受取リタル物カ尙ホ相續財産中ニ存スルトキハ其物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス  
金錢ヲ目的トスル債權ニ付テハ相續財産中ニ其債權額ニ相當スル金錢ナキトモ雖モ其金額ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

第一千百四條 負擔附遺贈ヲ受ケタル者ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ超エサル限度ニ於テノミ其負擔シタル義務ヲ履行スル責ニ任ス  
受遺者カ遺贈ノ拋棄ヲ爲シタルトキハ負擔ノ利益ヲ受クヘキ者自ラ受遺者ト爲ルコトヲ得但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千百五條 負擔附遺贈ノ目的ノ價額カ相續ノ限定承認又ハ遺留分回復ノ訴ニ因リテ減少シタルトキハ受遺者ハ其減少ノ割合ニ應シテ其負擔シタル義務ヲ免ル但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

#### 第四節 遺言ノ執行

第一千百六條 遺言ノ保管者ハ相續ノ開始ヲ知リタル後遲滯ナク之ヲ裁判所ニ提出シテ其檢認ヲ請求スルコトヲ要ス遺言書ノ保管者ナキ場合ニ於テ相續人カ遺言書ヲ發見シタル後亦同シ

取第三七一條  
第二項第三九  
五條第一項第  
二項

前項ノ規定ハ公正證書ニ依ル遺言ニハ之ヲ適用セス  
封印アル遺言書ハ裁判所ニ於テ相續人又ハ其代理人ノ立會ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ開封スルコトヲ得ス

取第三九五條  
第三項

第一千零七條 前條ノ規定ニ依リテ遺言書ヲ提出スルコトヲ怠リ、其檢認ヲ經スシテ遺言ヲ執行シ又ハ裁判所外ニ於テ其開封ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處セラル

取第三九八條  
第一項

第一千零八條 遺言者ハ遺言ヲ以テ一人又ハ數人ノ遺言執行者ヲ指定シ又ハ其指定ヲ第三者ニ委託スルコトヲ得

遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク其指定ヲ爲シテ之ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者カ其委託ヲ辭セントスルトキハ遲滞ナク其旨ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

第一千零九條 遺言執行者カ就職ヲ承諾シタルトキハ直チニ其任務ヲ行フコトヲ要ス

第一千十條 相續人其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ就職ヲ承諾スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ遺言執行者ニ催告スルコトヲ得若シ遺言執行者カ其期間内ニ相續人ニ對シテ確答ヲ爲ササルトキハ就職ヲ承諾シタルモノト看做ス

取第三九八條  
第二項

第一千十一條 無能力者及ヒ破産者ハ遺言執行者タルコトヲ得ス

第一千十二條 遺言執行者ナキトキ又ハ之ナキニ至リタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ之ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ選任シタル遺言執行者ハ正當ノ理由アルニ非サレハ就職ヲ拒ムコトヲ得ス

取第三九八條  
第二項

第一千十三條 遺言執行者ハ遲滞ナク相續財産ノ目錄ヲ調製シテ之ヲ相續人ニ交付スルコトヲ要ス

遺言執行者ハ相續人ノ請求アルトキハ其立會ヲ以テ財産目錄ヲ調製シ又ハ公證人ヲシテ之ヲ調製セシムルコトヲ要ス

取第三九八條  
第二項

第一千十四條 遺言執行者ハ相續財産ノ管理其他遺言ノ執行ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權利義務ヲ有ス

第六百四十四條乃至第六百四十七條及ヒ第六百五十條ノ規定ハ遺言執行者ニ之ヲ準用ス  
第一千十五條 遺言執行者アル場合ニ於テハ相續人ハ相續財産ヲ處分シ其他遺言ノ執行ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第一千十六條 前三條ノ規定ハ遺言カ特定財産ニ關スル場合ニ於テハ其財産ニ付テノミ之

ヲ適用ス

取第三九八條  
第二項  
取第三九八條  
第二項

第一千十七條 遺言執行者ハ之ヲ相續人ノ代理人ト看做ス  
第一千十八條 遺言執行者ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ第三者ヲシテ其任務ヲ行ハシムルコトヲ得ス但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス  
遺言執行者カ前項但書ノ規定ニ依リ第三者ヲシテ其任務ヲ行ハシムル場合ニ於テハ相續人ニ對シ第五百條ニ定メタル責任ヲ負フ

取第三九八條  
第二項

第一千十九條 數人ノ遺言執行者アル場合ニ於テハ其任務ノ執行ハ過半数ヲ以テ之ヲ決ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

取第三九八條  
第二項

各遺言執行者ハ前項ノ規定ニ拘ハラス保存行為ヲ爲スコトヲ得  
第一千二十條 遺言執行者ハ遺言ニ報酬ヲ定メタルトキニ限り之ヲ受クルコトヲ得  
裁判所ニ於テ遺言執行者ヲ選任シタルトキハ裁判所ハ事情ニ依リ其報酬ヲ定ムルコトヲ得

遺言執行者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ第六百四十八條第二項及ヒ第三項ノ規定ヲ準用ス

取第三九八條  
第二項

第一千二十一條 遺言執行者カ其任務ヲ怠リタルトキ其他正當ノ事由アルトキハ利害關係

人ハ其解任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

遺言執行者ハ正當ノ事由アルトキハ就職ノ後ト雖モ其任務ヲ辭スルコトヲ得

取第三九八條  
第二項

第一千二十二條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ遺言執行者ノ任務カ終了シタル場合ニ之ヲ準用ス

取第三九六條

第一千二十三條 遺言ノ執行ニ關スル費用ハ相續財産ノ負擔トス但之ニ因リテ遺留分ヲ減スルコトヲ得ス

### 第五節 遺言ノ取消

取第三九六條  
第四〇〇條

第一千二十四條 遺言者ハ何時ニテモ遺言ノ方式ニ從ヒテ其遺言ノ全部又ハ一部ヲ取消スコトヲ得

取第四〇〇條  
第四〇一條

第一千二十五條 前ノ遺言ト後ノ遺言ト抵觸スルトキハ其抵觸スル部分ニ付テハ後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ遺言ト遺言後ノ生前處分其他ノ法律行為ト抵觸スル場合ニ之ヲ準用ス

第一千二十六條 遺言者カ故意ニ遺言書ヲ毀滅シタルトキハ其毀滅シタル部分ニ付テハ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス遺言者カ故意ニ遺贈ノ目的物ヲ毀滅シタルトキ亦同シ

取第四〇六條

第一千二十七條 前三條ノ規定ニ依リテ取消サレタル遺言ハ其取消ノ行為カ取消サレ又ハ

効力ヲ生セサルニ至リタルトキト雖モ其効力ヲ回復セズ但其行爲カ詐欺又ハ強迫ニ因ル  
場合ハ此限ニ在ラス

取第四〇三條

第一千二百二十八條 遺言者ハ其遺言ノ取消權ヲ拋棄スルコトヲ得ス  
第一千二百二十九條 負擔附遺贈ヲ受クタル者カ其負擔シタル義務ヲ履行セサルトキハ相續人  
ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行ナキトキハ遺言ノ取消ヲ裁判  
所ニ請求スルコトヲ得

### 第七章 遺留分

取第三八四條  
第一項

第一千百三十條 法定家督相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ半額ヲ受  
ク此他ノ家督相續人ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受ク

取第三八四條  
第二項

第一千百三十一條 遺産相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ半額ヲ受ク  
遺産相續人タル配偶者又ハ直系尊屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受ク

取第三八三條  
第三八五條  
第三八七條

第一千百三十二條 遺留分ハ被相續人カ相續開始ノ時ニ於テ有セン財産ノ價額ニ其贈與シタ  
ル財産ノ價額ヲ加ヘ其中ヨリ債務ノ全額ヲ控除シテ之ヲ算定ス  
條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從  
ヒ其價格ヲ定ム

家督相續ノ特權ニ屬スル權利ハ遺留分ノ算定ニ關シテハ其價額ヲ算入セス

第一千百三十三條 贈與ハ相續開始前一年間ニ爲シタルモノニ限り前條ノ規定ニ依リテ其價  
額ヲ算入ス一年前ニ爲シタルモノト雖モ當事者雙方カ遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコト  
ヲ知リテ之ヲ爲シタルトキ亦同シ

取第三八六條  
第三八九條

第一千百三十四條 遺留分權利者及ヒ其承繼人ハ遺留分ヲ保全スルニ必要ナル限度ニ於テ遺  
贈及ヒ前條ニ掲ケタル贈與ノ減殺ヲ請求スルコトヲ得

取第三八五條

第一千百三十五條 條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ヲ以テ贈與又ハ遺贈ノ目的ト  
爲シタル場合ニ於テ其贈與又ハ遺贈ノ一部ヲ減殺スヘキトキハ遺留分權利者ハ第一千百三  
十二條第二項ノ規定ニ依リテ定メタル價格ニ從ヒ直チニ其殘部ノ價額ヲ受贈者又ハ受遺  
者ニ給付スルコトヲ要ス

取第三八六條  
第三八九條  
取第三八八條  
第三八九條

第一千百三十六條 贈與ハ遺贈ヲ減殺シタル後ニ非サレハ之ヲ減殺スルコトヲ得ス  
第一千百三十七條 遺贈ハ其目的ノ價額ノ割合ニ應シテ之ヲ減殺ス但遺言者カ其遺言ニ別段  
ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千百三十八條 贈與ノ減殺ハ後ノ贈與ヨリ始メ順次ニ前ノ贈與ニ及フ  
第一千百三十九條 受贈者ハ其返還スヘキ財産ノ外尙ホ減殺ノ請求アリタル日以後ノ果實ヲ

返還スルコトヲ要ス

第一千四百十條 減殺ヲ受クヘキ受贈者ノ無資力ニ因リテ生シタル損失ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸ス

第一千四十一條 負擔附贈與ハ其目的ノ假額中ヨリ負擔ノ假額ヲ控除シタルモノニ付キ其減殺ヲ請求スルコトヲ得

第一千四十二條 不相當ノ對價ヲ以テ爲シタル有價行爲ハ當事者雙方カ遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リテ爲シタルモノニ限り之ヲ贈與ト看做ス此場合ニ於テ遺留分權利者カ其減殺ヲ請求スルトキハ其對價ヲ償還スルコトヲ要ス

第一千四十三條 減殺ヲ受クヘキ受贈者カ贈與ノ目的ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ遺留分權利者ニ其假額ヲ辨償スルコトヲ要ス但讓受人カ讓渡ノ當時遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リタルトキハ遺留分權利者ハ之ニ對シテモ減殺ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ受贈者カ贈與ノ目的ノ上ニ權利ヲ設定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第一千四十四條 受贈者及ヒ受遺者ハ減殺ヲ受クヘキ限度ニ於テ贈與又ハ遺贈ノ目的ノ假額ヲ遺留分權利者ニ辨償シテ返還ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第一項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千四十五條 減殺ノ請求權ハ遺留分權利者カ相續ノ開始及ヒ減殺スヘキ贈與又ハ遺贈アリタルコトヲ知リタル時ヨリ一年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス相續開始ノ時ヨリ十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第一千四十六條 第九百九十五條、第一千四條、第一千五條、第一千七條及ヒ第一千八條ノ規定ハ遺留分ニ之ヲ準用ス

民法施行法

# 民法施行法

第一章	通則	.....	一頁
第二章	總則編ニ關スル規定	.....	四
第三章	物權編ニ關スル規定	.....	九
第四章	債權編ニ關スル規定	.....	二
第五章	親族編ニ關スル規定	.....	四
第六章	相續編ニ關スル規定	.....	一八

# 民法施行法

## 第一章 通則

第一條 民法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外民法ノ規定ヲ適用セス

第二條 民法ニ於テ破産ト稱スルハ民事ニ付テハ家資分散ヲ謂フ

第三條 身代限ノ處分ヲ受クタル者ハ其債務ヲ完済スルマテハ之ヲ破産者ト看做ス

第四條 證書ハ確定日附アルニ非サレハ第三者ニ對シ其作成ノ日ニ付キ完全ナル證據力ヲ有セス

第五條 證書ハ左ノ場合ニ限り確定日附アルモノトス

- 一 公正證書ナルトキハ其日附ヲ以テ確定日附トス
- 二 登記所又ハ公證人役場ニ於テ私署證書ニ日附アル印章ヲ押捺シタルトキハ其印章ノ日附ヲ以テ確定日附トス
- 三 私署證書ノ署名者中ニ死亡シタル者アルトキハ其死亡ノ日ヨリ確定日附アルモノトス



四 確定日附アル證書中ニ私署證書ヲ引用シタルトキハ其證書ノ日附ヲ以テ引用シタル私署證書ノ確定日附トス

五 官廳又ハ公署ニ於テ私署證書ニ或事項ヲ記入シ之ニ日附ヲ記載シタルトキハ其日附ヲ以テ其證書ノ確定日附トス

第六條 私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所又ハ公證人役場ニ請求スル者アルトキハ登記官吏又ハ公證人ハ確定日附簿ニ署名者ノ氏名又ハ其一人ノ氏名ニ外何名ト附記シタルモノ及ヒ件名ヲ記載シ其證書ニ登簿番號ヲ記入シ帳簿及ヒ證書ニ日附アル印章ヲ捺シ且其印章ヲ以テ帳簿ト證書トニ割印ヲ爲スコトヲ要ス  
證書カ數紙ヨリ成レル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル印章ヲ以テ每紙ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 確定日附簿ニハ豫メ登簿番號ヲ印刷シ請求順ヲ以テ前條ノ規定ニ從ヒ記入ヲ爲ス

確定日附簿ニハ地方裁判所長其紙數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ捺捺シ且職印ヲ以テ每紙ノ綴目又ハ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第八條 私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所又ハ公證人役場ニ請求スル者ハ命令ノ

定ムル所ニ依リ手数料ヲ納ムルコトヲ要ス

第九條 左ノ法令ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

一 明治五年第二百九十五號布告

二 明治六年第二十一號布告

三 同年第二十八號布告

四 同年第四十號布告

五 同年第六十二號布告

六 同年第七十七號布告

七 同年第二百五十五號布告代人規則

八 同年第二百五十二號布告

九 同年第三百六號布告動產不動産借入金穀貸借規則

十 同年第三百六十二號布告出訴期限規則

十一 明治七年第二十七號布告

十二 明治八年第六號布告

十三 同年第六十三號布告

十四 同年第百二號布告金穀貸借請入證人辨償規則

四

十五 同年第百四十八號布告建物書入質規則及ヒ建物賣買讓渡規則

十六 明治九年第七十五號布告

十七 同年第九十九號布告

十八 明治十年第五十號布告

十九 明治十四年第七十三號布告

二十 明治十七年第二十號布告

二十一 明治二十三年法律第九十四號財產委棄法

二十二 同年勅令第二百十七號辨濟提供規則

明治六年第十八號布告地所質入書入規則ハ第十一條ヲ除ク外民法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十條 民法中不動産上ノ權利ニ關スル規定ハ當分ノ内之ヲ沖繩縣ニ適用セス

第十一條 本法ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 第二章 總則編ニ關スル規定

第十二條 民法施行前ニ民法第七條又ハ第十一條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ後見人ヲ附シタ

ル者ハ其施行ノ日ヨリ禁治產者又ハ準禁治產者ト看做ス

後見人ハ民法施行ノ日ヨリ一个月内ニ禁治產又ハ準禁治產ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條 後見人其他民法第七條ニ掲ケタル者カ民法施行ノ日ヨリ一个月内ニ禁治產又ハ

準禁治產ノ請求ヲ爲サザリシトキハ其期間經過ノ後ハ前條第一項ノ規定ヲ適用セス

前項ノ期間内ニ禁治產又ハ準禁治產ノ請求アリタルモ裁判所ニ於テ之ヲ却下シタルトキ

ハ抗告期間經過ノ後若シ抗告アリタルトキハ最後ノ抗告棄却ノ時ヨリ又訴ニ於テ禁治產

又ハ準禁治產ノ宣告ヲ取消シタルトキハ其判決確定ノ日ヨリ前條第一項ノ規定ヲ適用セ

ス

第十四條 刑法第十條第三號、第三條第三十五條第三十六條、刑法附則第四十一條、陸軍

刑法第十八條第四號及ヒ海軍刑法第九條第四號、第二十二條ハ之ヲ削除ス

刑法第五十五條中「行政ノ處分ヲ以テ治產ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得但」ノ二十三字及

ヒ陸軍刑法第三十二條中「第三十五條第三十六條」ノ十字ハ之ヲ削除ス

第十五條 民法施行ノ日ニ於テ刑事禁治產者タル者ハ其施行ノ日ヨリ能力ヲ回復ス

第十六條 民法施行前ヨリ刑事禁治產者ノ財產ヲ管理スル者ハ刑事禁治產者又ハ刑事禁治

產者カ定メタル他ノ管理者カ其財產ヲ管理スルコトヲ得ルマテ管理ヲ繼續スルコトヲ要

ス

前項ノ場合ニ於テ管理者ハ民法第百三條ニ定メタル權限ヲ有ス但刑事禁治產者カ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第十七條 民法第二十五條乃至第二十九條ノ規定ハ民法施行前ニ住所又ハ居所ヲ去リタル者ニ付テモ亦之ヲ適用ス

民法施行前ヨリ不在者ノ財産ヲ管理スル者ハ其施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ其管理ヲ繼續ス

第十八條 民法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ民法施行前ヨリ生死分明ナラサル者ニモ亦之ヲ適用ス

民法施行前既ニ民法第三十條ノ期間ヲ經過シタル者ニ付テハ直チニ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ失踪者ハ民法ノ施行ト同時ニ死亡シタルモノト看做ス

第十九條 民法施行前ヨリ獨立ノ財産ヲ有スル社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ掲ケタル目的ヲ有スルモノハ之ヲ法人トス

前項ノ法人ノ代表者ハ民法第三十七條又ハ第三十九條ニ掲ケタル事項其他社員又ハ寄附者カ定メタル事項ヲ記載シタル書面ヲ作り民法施行ノ日ヨリ三個月内ニ之ヲ主務官廳ニ

六

差出クシ其認可ヲ請フコトヲ要ス此場合ニ於テ主務官廳ハ其書面カ民法其他ノ法令ニ反スルトキ又ハ公益ノ爲メ必要ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ認可ヲ得タル書面ハ定款又ハ寄附行爲ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十條 法人ノ代表者カ前條第二項ノ規定ニ從ヒ主務官廳ノ認可ヲ得タルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一 民法第四十六條第一項第一號乃至第三號及ヒ第五號乃至第八號ニ掲ケタル事項
- 二 主務官廳ノ認可ノ年月日

前項ノ期間ハ主務官廳ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登記ハ民法第四十六條第一項ニ定メタル登記ト同一ノモノト看做ス

第二十一條 第十九條第一項ノ法人カ財産目錄又ハ社員名簿ヲ備ヘサルトキハ民法施行ノ後遲滞ナク之ヲ作ルコトヲ要ス

第二十二條 法人ノ代表者カ前三條ノ規定ニ反シ認可ヲ受ケ、登記ヲ爲シ又ハ財産目錄若クハ社員名簿ヲ作ルコトヲ怠リタルトキハ五百圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第二十三條 第十九條第一項ノ法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ認可ノ條件ニ違反シ其

他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其解散ヲ命スルコトヲ得

第二十四條 民法ノ規定ニ依リ法人ニ關シテ登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯ナク之ヲ

公告スルコトヲ要ス

第二十五條 主務官廳カ正當ノ理由ナクシテ法人ノ設立許可ヲ取消シ又ハ其解散ヲ命シタ

ルトキハ其法人ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條 法人ノ清算人カ民法第七十九條及ヒ第八十一條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ

公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條 剝奪公權者及ヒ停止公權者ハ法人ノ理事、監事又ハ清算人タルコトヲ得ス

第二十八條 民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内神社、寺院、祠宇及ヒ佛堂ニハ之ヲ適用

セス

第二十九條 民法施行前ニ出訴期限ヲ經過シタル債權ハ時効ニ因リテ消滅シタルモノト看

做ス

第三十條 民法施行前ニ出訴期限ヲ經過セサル債權ニ付テハ民法中時効ニ關スル規定ヲ

適用ス

第三十一條 民法施行前ニ進行ヲ始メタル出訴期限カ民法ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キ

トキハ舊法ノ規定ニ從テ但其殘期カ民法施行ノ日ヨリ起算シ民法ニ定メタル時効ノ期間

ヨリ長キトキハ其日ヨリ起算シテ民法ノ規定ヲ適用ス

第三十二條 前條但書ノ規定ハ舊法ニ出訴期限ナキ權利ニ之ヲ準用ス

第三十三條 前三條ノ場合ニ於テ民法中時効ノ中斷及ヒ停止ニ關スル規定ハ民法施行ノ日

ヨリ之ヲ適用ス

第三十四條 第三十條乃至第三十二條ノ規定ハ時効期間ノ性質ヲ有セサル法定期間ニ之ヲ

準用ス

### 第三章 物權編ニ關スル規定

第三十五條 慣習上物權ト認メタル權利ニシテ民法施行前ニ發生シタルモノト雖モ其施行

ノ後ハ民法其他ノ法律ニ定ムルモノニ非サレハ物權タル效力ヲ有セス

第三十六條 民法ニ定メタル物權ハ民法施行前ニ發生シタルモノト雖モ其施行ノ日ヨリ民

法ニ定メタル效力ヲ有ス

第三十七條 民法又ハ不動産登記法ノ規定ニ依リ登記スヘキ權利ハ從來登記ナシシテ第三

者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシモノト雖モ民法施行ノ日ヨリ一年内ニ之ヲ登記スルニ非

サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十八條 民法施行前ヨリ占有又ハ準占有ヲ爲ス者ニハ其施行ノ日ヨリ民法ノ規定ヲ適用ス

第三十九條 民法施行前ヨリ動産ヲ占有スル者カ民法第九十二條ノ條件ヲ具備スルトキハ民法ノ施行ト同時ニ其動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第四十條 遺失物ハ明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則第二條ニ依リ榜示ヲ爲シタル後一年内ニ其所有者ノ知レサルトキハ民法施行前ニ其榜示ヲ爲シタルトキト雖モ拾得者其所有權ヲ取得ス但漂著物ニ付テハ明治八年第六十六號布告内國船難破及漂流物取扱規則ノ規定ニ從フ

第四十一條 埋藏物ニ付テハ特別法ノ施行ニ至ルマテ遺失物ト同一ノ手續ニ依リテ公告ヲ爲スコトヲ要ス

第四十二條 民法施行前ヨリ民法第二百四十二條乃至第二百四十六條ノ規定ニ依レハ所有權ヲ取得スヘカリシ狀況ニ在ル者ハ民法ノ施行ト同時ニ民法ノ規定ニ從ヒテ所有權ヲ取得ス但第三者カ正當ニ取得シタル權利ヲ妨グス

第四十三條 共有者カ民法施行前ニ於テ五年ヲ超ユル期間内共有物ノ分割ヲ爲ササル契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ民法施行ノ日ヨリ五年ヲ超ユサル範圍内ニ於テ其效力ヲ有ス

第四十四條 民法施行前ニ設定シタル地上權ニシテ存續期間ノ定ナキモノニ付キ當事者カ民法第二百六十八條第二項ノ請求ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ設定ノ時ヨリ二十年以上民法施行ノ日ヨリ五十年以下ノ範圍内ニ於テ其存續期間ヲ定ム

地上權者カ民法施行前ヨリ有シタル建物又ハ竹木アルトキハ地上權ハ其建物ノ朽廢又ハ其竹木ノ伐採期ニ至ルマテ存續ス

地上權者カ前項ノ建物ニ修繕又ハ變更ヲ加ヘタルトキハ地上權ハ原建物ノ朽廢スヘカリシ時ニ於テ消滅ス

第四十五條 外國人又ハ外國法人ノ爲メニ設定シタル地上權ニハ條約又ハ命令ニ別段ノ定ナキ場合ニ限リ民法ノ規定ヲ適用ス

第四十六條 民法第二百七十五條及ヒ第二百七十六條ノ期間ハ民法施行前ヨリ同條ニ定ムタル事實カ始マリタルトキト雖モ其始ヨリ之ヲ起算ス

第四十七條 民法施行前ニ設定シタル永小作權ハ其存續期間カ五十年ヨリ長キトキト雖モ其效力ヲ存ス但其期間カ民法施行ノ日ヨリ起算シテ五十年ヲ超ユルトキハ其日ヨリ起算シテ之ヲ五十年ニ短縮ス

民法施行前ニ期間ヲ定メスシテ設定シタル永小作權ノ存續期間ハ慣習ニ依リ五十年ヨリ

短キ場合ヲ除ク外民法施行ノ日ヨリ五十年トス

第四十八條 民法ノ規定ニ從ヘハ民法施行前ヨリ先取特權ヲ有スヘカリシ債權者ハ其施行ノ日ヨリ先取特權ヲ有ス

第四十九條 民法第三百七十條ノ規定ハ民法施行前ニ抵當權ノ目的タル不動産ニ附加シタル物ニモ亦之ヲ適用ス

第五十條 民法第三百七十四條ノ規定ハ民法施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス但民法施行ノ日ヨリ一年内ニ特別ノ登記ヲ爲シタル利息其他ノ定期金ニ付テハ元本ト同一ノ順位ヲ以テ抵當權ヲ行フコトヲ得

第五十一條 民事訴訟法第六百四十九條第二項及ヒ第三項ヲ改メテ左ノ三項トス  
不動産ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス  
留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨濟スル責ニ任ス  
質權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權ヲ以テ擔保スル債權及ヒ質權者ニ對シ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

### 第四章 債權編ニ關スル規定

第五十二條 明治十年第六十六號布告利息制限法第三條ハ之ヲ削除ス  
第五十三條 民法施行前ヨリ債務ヲ負擔スル者カ其施行ノ後ニ至リ債務ヲ履行セザルトキハ民法ノ規定ニ從ヒ不履行ノ責ニ任ス  
前項ノ規定ハ債權者カ債務ノ履行ヲ受クルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受クルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第五十四條 民事訴訟法第七百三十三條第一項ヲ左ノ如ク改ム

民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス

第五十五條 民事訴訟法第七百三十四條ヲ左ノ如ク改ム  
債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲サザルトキハ其遲延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス  
第五十六條 金錢ヲ目的トスル債務ヲ負擔シタル者カ民法施行前ヨリ其履行ヲ怠リタルトキハ損害賠償ノ額ハ其施行ノ日以後ハ民法第四百四條ニ定メタル利率ニ依リテ之ヲ定ム但民法第四百十九條第一項但書ノ適用ヲ妨ケス

第五十七條 指圖證券、無記名證券及民法第四百七十一條ニ掲ケタル證券ハ公示催告ノ手續ニ依リテ之ヲ無効ト爲スコトヲ得

第五十八條 民法施行前ニ發生シタル債務ト雖モ相殺ニ因リテ之ヲ免ルルコトヲ得  
雙方ノ債務カ民法施行前ヨリ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタルトキハ相殺ノ意思表示ハ民法施行ノ日ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第五十九條 民法第六百五條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル不動産ノ質貸借ニモ亦之ヲ適用ス

第六十條 第四十五條ノ規定ハ外國人又ハ外國法人ニ土地ヲ質貸シタル場合ニ之ヲ適用ス

第六十二條 刑法附則第五十四條乃至第六十條ハ之ヲ削除ス

第五章 親族編ニ關スル規定

第六十二條 民法施行ノ際家族タル者ハ民法ノ規定ニ依レハ家族タルコトヲ得サル者ト雖モ之ヲ家族トス

家族ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ戸主權ニ服ス

第六十三條 民法ノ規定ニ依レハ父又ハ母ノ家ニ入ルヘキ者ト雖モ民法施行ノ際他家ニ在

ル者ニハ其規定ヲ適用セス

第六十四條 民法施行前ニ隱居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リ隱居ヲ爲シ又ハ相

續ヲ承認シタルトキハ民法第七百五十九條ノ規定ニ依リテ之ヲ取消スコトヲ得但第三十

二條及第三十四條ノ適用ヲ妨グス

民法第七百六十條ノ規定ハ民法施行前ニ家督相續人ノ債權者ト爲リタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第六十五條 民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組カ其當時ノ法律ニ依レハ無効ナルト

キト雖モ民法ノ規定ニ依リ有效ナルヘキトキハ民法施行ノ日ヨリ有效トス

第六十六條 民法第七百六十七條第一項ノ期間ハ前婚カ民法施行前ニ解消シ又ハ取消サレタルトキト雖モ其解消又ハ取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六十七條 民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ノ原因タルヘキトキハ其婚姻又ハ養子縁組ハ之ヲ取消スコトヲ得但此事實カ既ニ民法ニ定メタル期間ヲ經過シタルモノナルトキハ此限ニ在ラス

第六十八條 民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組ト雖モ其施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ生ス

第六十九條 民法施行前ニ婚姻ヲ爲シタル者カ夫婦ノ財産ニ付キ別段ノ契約ヲ爲サザリシトキハ其財産關係ハ民法施行ノ日ヨリ法定財産制ニ依ル

民法施行前ニ夫婦カ其財産ニ付キ契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ婚姻届出ノ後ニ爲シタルモノト雖モ其效力ヲ存ス但其契約カ法定財産制ニ異ナルトキハ民法施行ノ日ヨリ六個月内ニ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十條 民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ離婚又ハ離縁ノ原因タルヘキトキハ夫婦又ハ養子縁組ノ當事者ノ一方ハ離婚又ハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第六十七條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十一條 嫡出ノ推定及ヒ否認ニ關スル民法ノ規定ハ民法施行前ニ懐胎シタル子ニモ亦之ヲ適用ス

第七十二條 子ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ父又ハ母ノ親權ニ服ス

第七十三條 裁判所ハ民法施行前ニ生シタル事實ニ據リテ親權又ハ管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

第七十四條 民法第九百條第一號ノ場合ニ於テ民法施行ノ際未成年者ノ後見人タル者アルトキハ其後見人ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ其任務ヲ行フ

第七十五條 民法第九百條第一號ノ場合ニ於テ民法施行ノ際未成年者カ後見人ヲ有セザルトキハ民法ニ定メタル者其後見人ト爲ル

第七十六條 民法施行前ニ民法第七條又ハ第十一條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ後見人ヲ附シタル者アル場合ニ於テ後見人其他民法第七條ニ掲ケタル者ノ請求ニ因リ禁治産又ハ準禁治産ノ宣告アリタルトキハ後見人ハ其宣告ノ時ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ後見人ノ任務ヲ行ヒ準禁治産ノ宣告アリタルトキハ保佐人ノ任務ヲ行フ

第七十七條 民法施行前ニ未成年又ハ民法第七條若クハ第十一條ニ掲ケタル原因ニ非サル事由ノ爲メニ選任シタル後見人ノ任務ハ民法施行ノ日ヨリ終了ス

未成年者ノ後見人又ハ民法第七條若クハ第十一條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ選任シタル後見人カ民法第九百八條ニ該當スルトキ亦同シ

第七十八條 民法第九百三十七條及ヒ第九百四十條乃至第九百四十二條ノ規程ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

民法第九百三十八條ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十九條 第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ後見監督人ヲ選任セシムル爲メ遲滞ナク親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス若シ之ニ違



反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得

第八十條 第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ遲滯ナク被後見人ノ財産ヲ調査シ其自録ヲ調製スルコトヲ要ス

民法第九百十七條第二項、第三項、第九百十八條及ヒ第九百十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十一條 民法第九百二十四條及ヒ第九百二十七條ノ規定ハ後見人カ第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ其任務ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第八十二條 民法第九百三十條ノ規定ハ後見人カ民法施行前ニ被後見人ノ財産又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ讓受ケタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十三條 後見人カ民法施行前ヨリ被後見人ノ財産ヲ賃借セルトキハ後見監督人ヲ選任セシムル爲メ招集シタル親族會ノ同意ヲ求ムルコトヲ要ス若シ親族會カ同意ヲ爲サザリシトキハ賃借ハ其效力ヲ失フ

第六章 相續編ニ關スル規定

第八十四條 民法施行前ニ民法第九百六十九條及ヒ第九百九十七條ニ掲ケタル行爲ヲ爲シタル者ト雖モ相續人タルコトヲ得ス

第八十五條 民法第九百七十四條及ヒ第九百九十五條ノ規定ハ相續人タルヘキ者カ民法施行前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニモ之ヲ適用ス

第八十六條 相續人廢除ノ原因タル事實カ民法施行前ニ生シタルトキト雖モ廢除ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十七條 相續人廢除ノ取消ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ廢除シタル相續人ニモ亦之ヲ適用ス

第八十八條 家督相續人指定ノ取消ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ指定シタル家督相續人ニモ亦之ヲ適用ス

第八十九條 民法第九百八十九條ノ規定ハ民法施行前ニ前戸主ノ債權者ト爲リタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第九十條 民法第九百七十七條及ヒ第九百八十八條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル贈與ニモ亦之ヲ適用ス

第九十一條 相續ノ承認、拋棄及ヒ財産ノ分離ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ開始シタル相續ニハ之ヲ適用セズ

第九十二條 相續人曠缺ノ場合ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ開始シタル相續ニ付テハ

其施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

第九十三條 遺言ノ成立及ヒ取消ニ付テハ其當時ノ法律ヲ適用シ其効力ニ付テハ遺言者ノ死亡ノ時ノ法律ヲ適用ス

第九十四條 民法第千三百三十二條乃至第千四百十五條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル贈與ニモ之ヲ適用ス

### 民法施行法終

## 人事訴訟手續法

人事訴訟手續法

第一章	婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ關スル手續	一頁
第二章	親子關係事件、相續人廢除事件及ヒ 隱居事件ニ關スル手續	七
第三章	禁治産及ヒ準禁治産ニ關スル手續	一〇
第四章	失踪ニ關スル手續	一六
附則		一八

## 人事訴訟手續法

### 第一章 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ關スル手續

第一條 婚姻ノ無效若クハ取消、離婚又ハ夫婦ノ同居ヲ目的トスル訴ハ夫カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス但縁組事件ニ附帶シテ婚姻ノ取消又ハ離婚ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ普通裁判籍ハ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ニ依リ居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定マル

最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ司法省令ヲ以テ指定シタル地ヲ住所地トス

第二條 夫婦ノ一方カ提起スル婚姻ノ無效又ハ取消ノ訴ニ於テハ其配偶者ヲ以テ相手方トス

第三者カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ夫婦ヲ以テ相手方トシ夫婦ノ一方カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

前二項ノ規定ニ依リテ相手方トスヘキ者カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス

檢事カ當事者ト爲リタル後相手方カ死亡シタルトキハ本案ノ訴訟手續受繼ノ爲メ裁判所ハ辯護士ヲ承繼人トシテ選定スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ辯護士ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三條 無能力者カ婚姻ノ無效若クハ取消、離婚又ハ同居ニ關スル訴訟行爲ヲ爲スニハ其法定代理人、保佐人又ハ夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

無能力者カ前項ノ訴訟行爲ヲ爲サントスルトキハ受訴裁判所ノ裁判長ハ申立ニ因リ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任スルコトヲ要ス

無能力者カ前項ノ申立ヲ爲ササルトキト雖モ受訴裁判所ノ裁判長ハ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任スヘキ旨ヲ命シ又ハ職權ヲ以テ其選任ヲ爲スコトヲ得

前條第五項ノ規定ハ受訴裁判所ノ裁判長カ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四條 夫婦ノ一方カ禁治産者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

禁治産者ノ配偶者カ其後見人ナルトキハ後見監督人ハ親族會ノ同意ヲ得テ前項ノ訴ヲ提

起スルコトヲ得

第五條 婚姻事件ニ付テハ檢事ハ辨論ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ要ス

檢事ハ受命判事又ハ受託判事ノ審問ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ得

事件及ヒ期日ハ檢事ニ之ヲ通知シ檢事カ立會ヒタル場合ニ於テハ其氏名及ヒ申立ヲ調書ニ記載スヘシ

第六條 檢事ハ當事者ト爲ラサトキト雖モ婚姻ヲ維持スル爲メ事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

第七條 婚姻ノ無效ノ訴、其取消ノ訴、離婚ノ訴及ヒ同居ノ訴ハ之ヲ併合シ又ハ反訴トシテ之ヲ提起スルコトヲ得

他ノ訴ハ之ヲ前項ノ訴ニ併合シ又ハ其反訴トシテ提起スルコトヲ得ス但扶養ノ請求、訴ノ原因タル事實ニ因リテ生シタル損害賠償ノ請求及ヒ民法ノ規定ニ依リ婚姻事件ニ附帶シテ爲スコトヲ得ル縁組ノ取消又ハ離縁ノ請求ハ此限ニ在ラス

第八條 婚姻事件ニ付テハ第一審又ハ控訴審ニ於ケル辯論ノ終結ニ至ルマテ訴若クハ其事由ヲ變更シ、之ヲ併合シ又ハ反訴ヲ提起スルコトヲ得

第九條 婚姻ノ無效若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ棄却ノ言渡ヲ受ケタル原告ハ訴若クハ

其事由ノ變更又ハ併合ニ依リ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

被告ハ反訴ノ事由トシテ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第十條 民事訴訟法第百十一條第二項、第三項及ヒ第三百三十五條乃至第三百四十一條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス同法第二百二十九條中請求ノ認諾ニ關スル規定亦同シ  
裁判上ノ自白ニ關スル法則ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス

民事訴訟法第二百十條ノ規定ハ婚姻事件ノ控訴審ニ之ヲ適用セス

第十一條 婚姻事件ノ被告カ第一審ニ於ケル最初ノ辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ更ニ其期日ヲ定ムルコトヲ要ス但被告カ公示送達ニ依リテ呼出ヲ受ケタル場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ場合ヲ除ク外被告カ期日ニ出頭セサルトキト雖モ辯論ヲ命シ且判決ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ民事訴訟法第二百四十八條及ヒ第四百二十九條ノ規定ヲ適用セス  
前二項ノ規定ハ反訴ノ被告ニ之ヲ適用ス

第十二條 裁判所ハ婚姻事件ニ付キ當事者ニ自身出頭ヲ命シ當事者又ハ檢事カ提出シタル

事實ニ付キ訊問ヲ爲スコトヲ得

當事者カ出頭スルコト能ハサルトキ又ハ遠隔ノ地ニ在ルトキハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得

出頭セサル當事者ニハ出頭セサル證人ニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第十三條 和諾ノ調フヘキ見込アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ一回ニ限リ一年ヲ超エサル期間離婚ノ訴ニ關スル手續ヲ中止スルコトヲ得

第十四條 裁判所ハ婚姻ヲ維持スル爲メ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者カ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得但其事實及ヒ證據調ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ

第十五條 婚姻ノ無效若クハ取消又ハ離婚ヲ言渡シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

第十六條 扶養若クハ同居ノ義務、子ノ監護其他ノ假處分ニ付テハ民事訴訟第七百五十六條乃至第七百六十三條ノ規定ヲ準用ス

第十七條 檢事カ取訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫ノ負擔トス

第十八條 婚姻ノ無效若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ言渡シタル判決ハ第三者ニ對シテモ其效力ヲ有ス

民法第七百六十六條ノ規定ニ違反シタルコトヲ理由トシテ婚姻ノ取消ヲ請求シタル場合ニ於テ其訴ヲ棄却シタル判決ハ當事者ノ前配偶者ニ對シテハ其者カ訴訟ニ參加シタルトキニ限り其效力ヲ有ス

第十九條 檢事カ提起スルコトヲ得ル婚姻事件ノ訴ニ限リ後四條ノ規定ヲ適用ス

第二十條 檢事カ訴ヲ提起スルトキハ夫婦ヲ以テ相手方トス

第二十一條 訴ノ變更若クハ併合又ハ反訴ノ提起ハ檢事カ提起スルコトヲ得ル訴ナルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

訴ノ事由ノ變更又ハ併合ハ檢事カ提起スルコトヲ得ル事由ナルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 檢事ハ他ノ者カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ訴訟手續ヲ進行シ又ハ上訴ヲ爲スコトヲ得但夫婦ノ一方カ死亡シタル後ハ此限ニ在ラス

第二十三條 檢事カ上訴ヲ爲ストキハ前審ノ當事者ノ全員ヲ以テ相手方トス

當事者ノ一人カ上訴ヲ爲ストキハ前審ノ他ノ當事者及ヒ當事者タリシ檢事ヲ以テ相手方トス

第二十四條 養子縁組ノ無效若クハ取消又ハ離縁ヲ目的トスル訴ハ養親カ普通裁判籍ヲ有

スル地又ハ死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス但婚姻事件ニ附帶シテ縁組ノ取消又ハ離縁ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス

第二十五條 養親カ禁治産者ナルトキハ第四條第一項ノ規定ヲ準用ス

養子カ禁治産者ナルトキハ實方ノ直系尊屬又ハ實家ノ戸主ハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十六條 第一條第二項、第三項、第二條、第三條及ヒ第五條乃至第十八條ノ規定ハ養子縁組事件ニ之ヲ準用ス

### 第二章 親子關係事件、相續人廢除事件及ヒ隱居事件

#### ニ關スル手續

第二十七條 子ノ否認、認知、其認知ノ無效若クハ取消又ハ民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二十八條 夫カ禁治産者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條 夫カ子ノ出生前又ハ否認ノ訴ヲ提起セスシテ民法第八百二十五條ノ期間内ニ

人事訴訟手續法 第二章親子關係事件、相續人廢除事件及ヒ隱居事件ニ關スル手續 七

死亡シタルトキハ其子ノ爲メニ相續權ヲ害セラルヘキ者其他夫ノ三親等内ノ血族ニ限リ  
否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ否認ノ訴ハ夫ノ死亡ノ日ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

夫カ否認ノ訴ヲ提起シタル後死亡シタルトキハ第一項ニ掲ケタル者ニ於テ訴訟手續ヲ受  
繼シコトヲ得

第三十條 父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子、母、母ノ配偶者又ハ其前配偶者ヨリ之ヲ  
提起スルコトヲ得

母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ハ互ニ其相手方ト爲ル

子又ハ母カ提起スル第一項ノ訴ニ於テハ母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ヲ以テ相手方トシ其  
一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

第三十一條 親權若シハ財産管理權ノ喪失又ハ失權ノ取消ヲ目的トスル訴ハ親權ヲ行フ者  
カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十二條 失權ノ取消ヲ目的トスル訴ニ付テハ現ニ親權若シハ管理權ヲ行フ者又ハ後見  
人ヲ以テ相手方トス

第三十三條 推定家督相續人若クハ推定遺産相續人ノ廢除又ハ其廢除ノ取消ヲ目的トスル

訴ハ被相續人カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ  
管轄ニ專屬ス

第三十四條 廢除ノ取消ヲ目的トスル訴ニ付テハ廢除ニ因リテ推定家督相續人又ハ推定遺  
産相續人ト爲リタル者ヲ以テ相手方トス

第三十五條 隱居ノ無効又ハ取消ヲ目的トスル訴ハ隱居者カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其  
死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十六條 隱居者カ提起スル隱居ノ無効又ハ取消ノ訴ニ於テハ家督相續人ヲ以テ相手方  
トス

家督相續人カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ隱居者ヲ以テ相手方トス

隱居者及ヒ家督相續人ニ非サル者カ提起スル第一項ノ訴ニ於テハ隱居者及ヒ家督相續人  
ヲ以テ相手方トシ其一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

第三十七條 檢事ハ本章ニ掲ケタル訴ニ付キ事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得  
第三十八條 本章ニ掲ケタル訴ニ付キ原告ノ申立ニ相當スル言渡ヲ爲シタル判決ハ職權ヲ  
實及ヒ證據調ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ

第三十八條 本章ニ掲ケタル訴ニ付キ原告ノ申立ニ相當スル言渡ヲ爲シタル判決ハ職權ヲ  
人亦訴訟手續法 第二章 親子關係事件、相續人廢除事件及ヒ隱居事件ニ關  
スル手續 九



以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

十

第三十九條 第一條第二項、第三項、第三條、第五條、第七條第二項、第十條乃至第十二條及  
ヒ第十六條乃至第十八條ノ規定ハ本章ニ掲ケタル訴ニ之ヲ準用ス

第七條第二項、第八條及ヒ第九條ノ規定ハ第三十一條、第三十三條及ヒ第三十五條ニ掲  
ケタル訴、子ノ認知ノ無効ノ訴及ヒ其取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二十一條乃至第二十三條ノ規定ハ親權又ハ財産管理權ノ喪失ヲ目的トスル訴及ヒ隠居  
ノ取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二條第三項乃至第五項ノ規定ハ第三十條第二項、第三項、第三十四條及ヒ第三十六條  
ノ場合ニ之ヲ準用ス

### 第三章 禁治産及ヒ準禁治産ニ關スル手續

第四十條 禁治産ノ申立ハ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判  
所ノ管轄ニ專屬ス

第一條第二項ノ規定ハ前項ノ裁判籍ニ之ヲ準用ス

第四十一條 妻カ夫ノ禁治産ノ申立ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

第四十二條 申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

申立ニハ其原因タル事實及ヒ證據方法ヲ表示スヘシ

第四十三條 裁判所ハ禁治産ノ手續ノ開始前診斷書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第四十四條 禁治産ノ手續ハ之ヲ公行セス

第四十五條 檢事ハ他ノ者カ禁治産ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ其手續ヲ  
進行シ且期日ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ得

事件及ヒ期日ハ檢事ニ之ヲ通知シ檢事カ立會ヒタル場合ニ於テハ其氏名及ヒ申立ヲ調書  
ニ記載スヘシ

第四十六條 裁判所ハ申立ニ表示シタル事實及ヒ證據方法ヲ斟酌シ職權ヲ以テ心神ノ狀況  
ニ關スル探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

民事訴訟法第二編第一章第六節及ヒ第七節ノ規定ハ證人及ヒ鑑定人ノ訊問ニ之ヲ準用ス  
第四十七條 裁判所ハ鑑定人ノ立會ヲ以テ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者ヲ訊問スヘシ但其訊  
問ヲ爲シ難キトキ又ハ其者ノ健康ニ害アルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ訊問ハ受託判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條 禁治産ノ宣告ハ心神ノ狀況ニ付キ鑑定人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲ス  
コトヲ得ス

第四十九條 禁治産ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ禁治産者ノ負擔トス

前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第五十條 裁判所ハ禁治産ノ宣告ヲ爲スニ至ルマテ其宣告ヲ受クヘキ者ノ監護又ハ其財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得禁治産ノ宣告ヲ爲シタル後其處分ヲ必要ト認ムルトキ亦同シ

第五十一條 禁治産ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人及ヒ檢事ニ送達スヘシ

禁治産ヲ宣告シタル決定ハ職權ヲ以テ申立人、檢事及ヒ禁治産者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ニ之ヲ送達スヘシ

第五十二條 禁治産ヲ宣告シタル決定ハ禁治産者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者カ其送達ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生ス

法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ナキ場合ニ於テハ檢事カ送達ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生ス

第五十三條 裁判所ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ヲ送達シタルトキハ直チニ之ヲ公告スヘシ

トヲ得

第五十四條 申立人及ヒ檢事ハ禁治産ノ申立ヲ却下シタル決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十三條乃至第四十六條ノ規定ハ抗告裁判所ノ手續ニ之ヲ準用ス

第五十五條 民法ノ規定ニ依リテ禁治産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル者ハ其宣告ニ對シ一個月内ニ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ期間ハ禁治産者ニ對シテハ禁治産ノ宣告ヲ知リタル日ヨリ之ヲ起算シ其他ノ者ニ對シテハ決定カ效力ヲ生シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第五十六條 前條第一項ノ訴ハ禁治産ノ宣告ヲ爲シタル區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第五十七條 第五十五條第一項ノ訴ニ於テハ禁治産ノ申立人ヲ以テ相手方トス

トヲ得ス

禁治産ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トシ檢事カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ禁治産者ノ法定代理人ヲ以テ相手方トス

第五十九條 第二條第四項、第五項、第三條、第五條、第十條、第十一條、第十七條、第四十七條及ヒ第四十八條ノ規定ハ第五十五條第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第六十條 裁判所カ第五十五條第一項ノ訴ヲ理由アリト認ムルトキハ禁治産ヲ宣告シタル決定ヲ取消スヘシ此場合ニ於テハ判決ノ確定ニ至ルマテ禁治産者ノ監護又ハ其財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第六十一條 禁治産ノ宣告ノ取消前ニ於テ後見人カ爲シタル行爲ハ其效力ヲ變セズ

禁治産ノ宣告ノ取消前ニ於テ禁治産者カ爲シタル行爲ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ニ基キテ之ヲ取消スコトヲ得ス

第六十二條 禁治産ノ宣告ヲ取消シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

前項ノ判決カ確定シタルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ公告スヘシ

第六十三條 禁治産ノ原因止ミタルコトヲ理由トシテ其宣告ノ取消ヲ求ムル申立ハ禁治産者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一條第二項及ヒ第四十二條乃至第四十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十四條 前條第一項ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治産ノ宣告ノ取消アリタル場合ニ於テハ禁治産者ノ負擔トス

前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第六十五條 禁治産ノ取消ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人ニ送達スヘシ

禁治産ヲ取消シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人、檢事及ヒ禁治産者ニ送達スヘシ第六十二條第二項ノ規定ハ此決定ニ之ヲ準用ス

檢事ハ前項ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第六十六條 禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ其申立ヲ却下シタル決定ニ對シテ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第五十六條乃至第六十條、第六十一條第一項及ヒ第六十二條ノ規定ハ前項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第六十七條 準禁治産ニ關スル手續ニハ本章ノ規定ヲ準用ス

第四十三條、第四十七條及ヒ第四十八條ノ規定ハ浪費者ニ之ヲ適用セズ

第三條第二項乃至第四項ノ規定ハ準禁治産者ニ之ヲ適用セズ

第六十八條 準禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ民法第十二條第二項ノ規定ニ依リ

テ爲シタル宣告ノ取消又ハ變更ヲ申立ツルコトヲ得此場合ニ於テハ準禁治産ノ取消ニ關スル規定ヲ準用ス

第六十九條 本章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ノ方法ハ司法大臣之ヲ定ム

### 第四章 失踪ニ關スル手續

第七十條 失踪ノ宣告及ヒ其宣告ノ取消ニハ以下數條ニ定メタルモノノ外民事訴訟法第七百六十五條乃至第七百七十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十一條 失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ハ不在者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十二條 公示催告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 不在者ハ公示催告期日マテニ其生存ノ届出ヲ爲スヘク其届出ヲ爲ササルトキハ失踪ノ宣告ヲ受クヘキコト
- 二 不在者ノ生死ヲ知ル者ハ公示催告期日マテニ其届出ヲ爲スヘキコト

公示催告期間ハ六個月以上ナルコトヲ要ス

第七十三條 不在者ノ出生後百年以上ヲ經過シタル場合ニ於テハ公示催告ノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ公示催告期間ハ其公告ノ日ヨリ二個月以上ナルヲ以テ足ル

第七十四條 檢事ハ失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ニ付キ意見ヲ述ヘ且審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得

第四十二條第二項、第四十五條第二項及ヒ第四十六條ノ規定ハ本章ノ手續ニ之ヲ準用ス  
第七十五條 各利害關係人ハ共同ノ申立人トシテ手續ニ加ハリ又ハ申立人ニ代ハリテ手續ヲ續行スルコトヲ得

第七十六條 不在者カ其生存ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テ申立人カ其事實ヲ認メサルトキハ判決ノ確定ニ至ルマテ公示催告手續ヲ中止スヘシ

第七十七條 失踪ノ宣告ニ關スル手續ノ費用ハ失踪ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續財産ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ申立人ノ負擔トス

第七十八條 失踪ノ宣告ノ判決ニ對シテ不服ヲ申立ツル訴ハ利害關係人ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ訴ニ付テハ失踪ノ宣告ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス此場合ニ於テハ第二條第四項及ヒ第五項ノ規定ヲ準用ス

第七十九條 數個ノ不服申立ノ訴アルトキハ裁判所ハ之ヲ併合スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟手續法 第四章 失踪ニ關スル手續 附則

訴訟法等五十條ノ規定ヲ適用ス  
第八十條 民法第三十二條ニ依ル失踪ノ宣告ノ取消ハ其判決ニ對スル不服申立ノ訴ヲ以テ之ヲ請求スルコトヲ得但失踪者ノ生存スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ民事訴訟法第七百七十五條ノ規定ヲ適用セス

附則

第八十一條 本法ハ民法施行ハ日ヨリ之ヲ施行ス  
第八十二條 明治二十三年法律第四百四號其他従前ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸シ又ハ重複スルモノハ本法施行ハ日ヨリ之ヲ廢止ス  
第八十三條 本法施行前ニ提起シタル訴ニシテ其判決確定セサルモノニハ本法ノ規定ヲ適用ス

人事訴訟手續法終

本法律ニ關シテハ民事訴訟法ノ規定ニ依リテ之ヲ施行ス

非訟事件手續法

非訟事件手續法

第一編 總則

第二編 民事非訟事件

第一章	法人ニ關スル事件	一七
第二章	財産ノ管理ニ關スル事件	一七
第三章	裁判上ノ代位ニ關スル事件	一六
第四章	保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件	一七
第五章	隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ 親族會ニ關スル事件	一九
第六章	相續ノ承認及ヒ拋棄ニ關スル事件	二二
第七章	遺言ノ確認及ヒ執行	二三
第八章	法人及ヒ夫婦財産契約ノ登記	二五

第三編 商事非訟事件

第一章 會社及ヒ競賣ニ關スル事件 ..... 二七

第二章 會社ノ清算人ノ選任及ヒ解任 ..... 三〇

第三章 商業登記 ..... 三〇

第一節 通則 ..... 三〇

第二節 商號ノ登記 ..... 三五

第三節 未成年者、妻及ヒ後見人ノ登記 ..... 三六

第四節 支配人及ヒ會社ノ清算人ノ登記 ..... 三八

第五節 合名會社及ヒ合資會社ノ登記 ..... 四〇

第六節 株式會社ノ登記 ..... 四二

第七節 株式合資會社ノ登記 ..... 四五

第八節 外國會社ノ登記 ..... 四八

附則 ..... 四九

非訟事件手續法

第一編 總則

- 第一條 裁判所ノ管轄ニ屬スル非訟事件ニ付テハ本法其他ノ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本編ノ規定ヲ適用ス
- 第二條 裁判所ノ土地ノ管轄カ住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス
- 居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス
- 最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ財産ノ所在地又ハ司法大臣ノ指定シタル地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス相續開始地ノ裁判所カ管轄裁判所ナル場合ニ於テ相續カ外國ニ於テ開始シタルトキ亦同シ
- 第三條 數個ノ管轄裁判所アル場合ニ於テハ最初事件ノ申立ヲ受ケタル裁判所其事件ヲ管轄ス
- 第四條 管轄裁判所ノ指定ハ裁判所構成法第十條第一號ニ掲ケタル場合ノ外數個ノ裁判所ノ土地ノ管轄ニ付キ疑アルトキ之ヲ爲ス

民事訴訟法第二十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條 裁判所職員ノ除斥ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

第六條 事件ノ關係人ハ訴訟能力者ヲシテ代理セシムルコトヲ得但自身出頭ヲ命セラレタルトキハ此限ニ在ラス

裁判所ハ辯護士ニ非シテ代理ヲ營業トスル者ニ退斥ヲ命スルコトヲ得此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七條 民事訴訟法第六十四條ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス但裁判所ハ職權ヲ以テ私署證書ニ認證ヲ受クヘキ旨ヲ命スルコトヲ得此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第八條 申立及ヒ陳述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第三百五條ノ規定ハ口頭ノ申立及ヒ陳述ニ之ヲ準用ス

第九條 申立ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ代理人之ニ署名、捺印スヘシ

- 一 申立人ノ氏名、住所
- 二 代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其氏名、住所
- 三 申立ノ趣旨及ヒ其原因タル事實

四 年月日

五 裁判所ノ表示

證據書類アルトキハ其原本又ハ謄本ヲ添附スヘシ

第十條 期日、期間、説明ノ方法、人證及ヒ鑑定ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

第十一條 裁判所ハ職權ヲ以テ事實ノ探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

第十二條 事實ノ探知、呼出、告知及ヒ裁判ノ執行ニ關スル行為ハ之ヲ囑託スルコトヲ得

第十三條 審問ハ之ヲ公行セス但裁判所ハ相當ト認ムル者ニ傍聽ヲ許スコトヲ得

第十四條 證人又ハ鑑定人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ラシメ其他ノ審問ニ付テハ必要ト認ムル場合ニ限り之ヲ作ラシムヘシ

第十五條 檢事ハ事件ニ付キ意見ヲ述ヘ審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得

事件及ヒ審問期日ハ檢事ニ之ヲ通知スヘシ

第十六條 裁判所其他ノ官廳、檢事及ヒ公吏ハ其職務上檢事ノ請求ニ因リテ裁判ヲ爲スヘキ場合カ生シタルヲ知リタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ通知スヘシ

第十七條 裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス



裁判ノ原本ニハ判事署名、捺印スヘシ但申立書又ハ調書ニ裁判ヲ記載シ判事之ニ署名、捺印シテ原本ニ代フルコトヲ得

第十八條 裁判ノ正本及ヒ謄本ニハ書記署名、捺印シ且正本ニハ裁判所ノ印ヲ押捺スヘシ  
裁判ノ告知ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ其効力ヲ生ス

告知ノ方法、場所及ヒ年月日ハ之ヲ裁判ノ原本ニ記入スヘシ

第十九條 裁判所ハ裁判ヲ爲シタル後其裁判ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ハ申立ニ因ルニ非ザレハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ス

即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ス

第二十條 裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタリトスル者ハ其裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ申立人ニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 抗告ハ特ニ定メタル場合ヲ除ク外執行停止ノ効力ヲ有セス

第二十二條 即時抗告ノ期間ハ裁判ノ告知ノ日ヨリ之ヲ起算ス

民事訴訟法第七十四條乃至第七十六條ノ規定ハ即時抗告ノ期間ヲ懈怠シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 抗告裁判所ノ裁判ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第二十四條 抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第四百三十五條、第四百三十六條及ヒ第四百五十三條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第二十五條 抗告ニハ前五條ニ定メタルモノヲ除ク外民事訴訟法抗告ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十六條 裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ特ニ其負擔者ヲ定メタル場合ヲ除ク外事件ノ申立人ノ負擔トス但檢事力申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第二十七條 裁判所ハ前條ノ費用ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ必要ト認ムルトキハ其額ヲ確定シテ事件ノ裁判ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第二十八條 裁判所ハ特別ノ事情アルトキハ本法ノ規定ニ依リテ費用ヲ負擔スヘキ者ニ非サル關係人ニ費用ノ全部又ハ一部ノ負擔ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 民事訴訟法第八十條第一項ノ規定ハ共同ニテ費用ヲ負擔スヘキ者數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 費用ノ裁判ニ對シテハ其負擔ヲ命セラレタル者ニ限り不服ヲ申立ツルコトヲ得

民事訴訟法第八十二條第一項ノ規定ハ前項ノ申立ニ之ヲ準用ス

第三十一條 費用ノ債權者ハ費用ノ裁判ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第六編ノ規定ハ前項ノ強制執行ニ之ヲ準用ス但執行ヲ爲ス前裁判ヲ送達スルコトヲ要セス

費用ノ裁判ニ對スル抗告アリタルトキハ民事訴訟法第五百條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 職權ヲ以テ爲ス探知、證據調、呼出、告知其他必要ナル處分ノ費用ハ國庫ニ於テ之ヲ立替フヘシ

第三十三條 本編ニ於ケル申立トハ申立、申請及ヒ申述ヲ謂フ

## 第二編 民事非訟事件

### 第一章 法人ニ關スル事件

第三十四條 民法第四十條ニ定メタル事件ハ法人ノ設立者カ死亡ノ時ニ有シタル住所地ノ

區裁判所ノ管轄トス

法人ノ設立者カ日本ニ住所ヲ有セザリシトキ又ハ其住所カ知レサルトキハ其死亡ノ時ノ居所地又ハ法人設立地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十五條 假理事又ハ特別代理人ノ選任ハ法人ノ主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

法人ノ解散及ヒ清算ノ監督ハ其主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十六條 裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ法人ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十七條 第三百三十六條、第三百三十七條及ヒ第七百七十五條乃至第七百七十七條ノ規定ハ法人ノ清算人ニ之ヲ準用ス

### 第二章 財産ノ管理ニ關スル事件

非訟事件手続法 第二編 民事非訟事件第一章 法人ニ關スル事件 第二章 財産ノ管理ニ關スル事件

第三十八條 不在者ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ其住所地ノ區裁判所ノ管轄トス  
第三十九條 裁判所ハ管理人ヲ選任シ又ハ改任スヘキ場合ニ於テハ利害關係人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第四十條 裁判所ハ何時ニテモ其選任シタル管理人ヲ改任スルコトヲ得此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス  
管理人ハ其任務ヲ辭セントスルトキハ裁判所ニ其旨ヲ届出ツヘシ此場合ニ於テハ裁判所ハ更ニ管理人ヲ選任スヘシ

第四十一條 裁判所ハ其選任シタル管理人ニ財産ノ狀況ヲ報告シ且管理ノ計算ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

民法第二十七條第二項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ不在者カ置キタル管理人ニモ前項ノ手續ヲ命スルコトヲ得

前二項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四十二條 利害關係人ハ前條ノ報告及ヒ計算ニ關スル書類ノ閱覽ヲ申請シ又ハ手数料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得  
檢事ハ前項ノ書類ヲ閱覽スルコトヲ得

第四十三條 民法第六百四十四條、第六百四十六條、第六百四十七條及ヒ第六百五十條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル管理人ニ之ヲ準用ス

第四十四條 裁判所ハ管理人ヲシテ擔保ヲ供セシメタル後其増減、變更又ハ免除ヲ命スルコトヲ得

第四十五條 裁判所ハ管理人ノ不動産又ハ船舶ノ上ニ抵當權ヲ設定スヘキコトヲ命シタルトキハ其設定ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ囑託ニハ抵當權ノ設定ヲ命シタル裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ  
前二項ノ規定ハ設定シタル抵當權ノ變更又ハ消滅ノ登記ニ之ヲ準用ス

第四十六條 裁判所カ財産ノ封印ヲ命シタル場合ニ於テハ管轄區裁判所之ヲ爲ス  
利害關係人、管理人及ヒ檢事ハ封印ノ手續ニ立會フコトヲ得

- 第四十七條 左ニ掲ケタル物ニハ封印ヲ爲スヘカラス
- 一 日用品
- 二 封印ヲ爲スニ適セサル物

三 第三者ノ占有ニ屬スル物但其提出ヲ拒マサルトキハ此限ニ在ラス  
第四十八條 封印ニハ判事ノ職印ヲ用ニヘシ

民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ手續ニ之ヲ準用ス

十

第四十九條 裁判所ハ封印ヲ爲シタルトキハ財産ノ保管者ヲ選任スヘシ  
第四十條 民法第六百五十八條第一項、第六百五十九條乃至第六百六十一條及ヒ第六百六十四條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル保管者ニ之ヲ準用ス但民法第六百六十條ノ通知ハ之ヲ檢事ニ爲スコトヲ要ス

第五十條 封印ヲ爲シタルトキハ書記ハ直チニ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ

一 封印ヲ命シタル裁判ノ表示

二 封印ノ手續ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其事由

三 申立人ノ氏名、住所

四 封印ヲ爲シタル物件、家屋又ハ倉庫

五 封印ヲ爲ササリシ物件ノ概略及ヒ其事由

調書ハ二通ヲ作り其一通ハ之ヲ裁判所ニ保存シ其一通ハ之ヲ保管者ニ交付シテ受領證ヲ取置クヘシ

第五十一條 裁判所ハ利害關係人、管理人又ハ檢事ノ請求ニ因リ民法第二十五條第二項及

ヒ本法第五十九條以外ノ場合ニ於テモ封印ノ除去ヲ命スルコトヲ得

第四十六條、第五十條第一項及ヒ民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ除去ニ之ヲ準用ス

保管者ハ封印ノ除去ニ立會フコトヲ得

第五十二條 裁判所ハ豫メ封印ヲ除去スヘキ期日ヲ定メ申立人、利害關係人保管者、管理人及ヒ檢事ニ之ヲ告知スヘシ

利害關係人、管理人及ヒ檢事ハ前項ノ期日前ニ裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得但民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ハ此限ニ在ラス

異議ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 異議ノ申立アリタルトキハ其申立ノ取下又ハ却下ノ後ニ非サレハ封印ヲ除去スルコトヲ得ス

封印ヲ除去シタルトキハ直チニ書記又ハ公證人ヲシテ財産ノ目錄ヲ調製セシムヘシ但民法第廿五條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ニ於テ立會人之ヲ調製セサルコトニ同意シタルトキハ此限ニ在ラス

第五十四條 封印ノ除去ノ調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名、捺

印スヘシ

十二

- 一 封印ノ除去ヲ命シタル裁判ノ表示
  - 二 封印ノ除去ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其事由
  - 三 申立人ノ氏名、住所
  - 四 異議ノ申立ナカリシコト又ハ其申立ノ取下若クハ却下アリタルコト
  - 五 財産ノ目録ヲ調製セシメ又ハ之ヲ調製セシメサリシコト
  - 六 封印ノ状況及ヒ異狀アルトキハ其事由
- 調書ハ裁判所ニ之ヲ保存スヘシ
- 第五十五條 管理人カ調製スヘキ財産ノ目録ニハ左ノ事項ヲ記載シ管理人及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ

- 一 調製ノ場所、年月日及ヒ其事由
- 二 申立人ノ氏名、住所
- 三 不動産ノ表示
- 四 動産ノ種類及ヒ數量
- 五 債權及ヒ債務ノ表示

#### 六 帳簿、證書其他ノ書類

財産ノ目録ハ二通ヲ調製シ其一通ハ管理人ノ之ヲ保管シ其一通ハ之ヲ裁判所ニ提出スヘシ

第四十六條第二項ノ規定ハ財産ノ目録ノ調製ニ之ヲ準用ス

第五十六條 民法第二十七條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テ裁判所ハ公證人ヲシテ財産ノ目録ヲ調製ヒシムヘキ旨ヲ管理人ニ命スルコトヲ得管理人カ調製シタル目録ヲ不充分ト認メタルトキ亦同シ

前項ノ命令ニ對シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

前條ノ規定ハ本條第一項又ハ第五十三條第二項ノ規定ニ依リテ書記又ハ公證人カ財産ノ目録ヲ調製スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 利害關係人ハ財産ノ目録ノ閲覧ヲ申請シ又ハ手数料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

檢事ハ財産ノ目録ヲ閲覧スルコトヲ得

第五十八條 裁判所ハ不在者ノ財産ヲ賣却セシムヘキ場合ニ於テハ競賣法ノ規定ニ依リテ之ヲ賣却スヘキコトヲ命スヘシ

第五十九條 本人カ自ラ其財産ヲ管理スルコトヲ得ルニ至リタルトキ又ハ其死亡カ分明ト

爲リ若クハ失踪ノ宣告アリタルトキハ裁判所ハ本人、利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其命シタル處分ヲ取消スヘシ

十四

第六十條 利害關係人ハ不在者ノ財産ノ管理若クハ保存ニ付キ處分ヲ命シ、其處分ヲ取消シ又ハ管理人ニ其權限ヲ超ユル行爲ヲ爲スコトヲ許可シタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

不在者カ置キタル管理人ハ其改任ヲ命シタル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ管理人カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十一條 裁判所カ職權ヲ以テ裁判ヲ爲シ又ハ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ不在者ノ財産ノ負擔トス裁判所ノ命シタル處分ニ付キ必要ナル費用亦同シ

第六十二條 裁判所カ抗告人ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ不在者ノ財産ノ負擔トス

第六十三條 民法第八百九十二條第二項乃至第四項ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ子ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三者カ數人ノ子ニ財産ヲ與ヘタル場合ニ於テ其住所カ異ナルトキハ年少ノ子ノ住所地

#### ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十四條 第三者カ被後見人ニ與ヘタル財産ノ管理ニ關スル事件ハ被後見人ノ住所地ノ

#### 區裁判所ノ管轄トス

第六十五條 民法第二十二條第二項、第三項及ヒ第五十二條ノ相續財産ノ管理又ハ保存ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十六條 民法第九百七十八條ノ遺産ノ管理ニ關スル事件ハ相續人ノ廢除又ハ其取消ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

第六十七條 民法第四十三條ノ相續財産ノ管理ニ關スル事件ハ財産分離ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

第六十八條 第三十九條乃至第六十三條ノ規定ハ前五條ニ掲ケタル事件ニ之ヲ準用ス

第六十九條 民法第五十二條第二項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 申立人ノ氏名、住所
- 二 被相續人ノ氏名、身分、職業及ヒ最後ノ住所
- 三 被相續人ノ出生及ヒ死亡ノ場所並ニ其年月日
- 四 管理人ノ氏名、住所

第七十條 民法第千五十八條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 前條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項
- 二 相續人ハ一定ノ期間内ニ其權利ヲ主張スヘキ旨ノ催告

第七十一條 民事訴訟法第七百六十六條ニ定メタル公告ノ方法ハ前二條ノ公告ニ之ヲ準用ス

### 第三章 裁判上ノ代位關ニスル事件

第七十二條 債權者ハ自己ノ債權ノ期限前ニ債務者ノ權利ヲ行ハサレハ其債權ヲ保全スルコト能ハス又ハ之ヲ保全スルニ困難ヲ生スル虞アルトキハ裁判上ノ代位ヲ申請スルコトヲ得

第七十三條 裁判上ノ代位ハ債務者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄トス

第七十四條 代位ノ申請ニハ第九條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 債務者及ヒ第三債務者ノ氏名、住所
  - 二 申請人ノ保全セントスル債權及ヒ其行ハントスル權利ノ表示
- 第七十五條 裁判所ハ申請ヲ理由アリト認ムルトキハ擔保ヲ供セシメ又ハ供セシメザルコトヲ許可スルコトヲ得

第七十六條 申請ヲ許可シタル裁判ハ職權ヲ以テ之ヲ債務者ニ告知スヘシ  
前項ノ告知ヲ受ケタル債務者ハ其權利ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第七十七條 申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ債務者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
申請ヲ許可シタル裁判ニ對シテハ債務者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ債務者カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第七十八條 抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ニ付テハ申請人及ヒ抗告人ヲ當事者ト看做シ民事訴訟法第七十二條第一項ノ規定ニ從ヒテ其負擔者ヲ定ム

第七十九條 第十三條及ヒ第十五條ノ規定ハ本章ノ手續ニ之ヲ適用セス

### 第四章 保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件

第八十條 民法第二百六十二條第三項ノ證書保存者ノ指定ハ共有物ノ分割アリタル地ノ區裁判所ノ管轄トス  
裁判所ハ裁判ヲ爲ス前共有者ヲ訊問スヘシ  
裁判所カ第一項ノ指定ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ共有者ノ全員ノ負擔トス

第八十一條 民法第四百九十五條第二項ノ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ハ債務履行地ノ區裁判所ノ管轄トス

非訟事件手續法 第二編 第三章 裁判上ノ代位ニ關スル事件 第四章 保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前債權者及ヒ辨濟者ヲ訊問スヘシ  
裁判所カ第一項ノ指定及ヒ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債權者ノ負擔トス

第八十二條 第四十條、民法第六百五十八條第一項、第六百五十九條乃至第六百六十一條及ヒ第六百六十四條ノ規定ハ前條ノ保管者ニ之ヲ準用ス但民法第六百六十條ノ通知ハ辨濟者ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十三條 第八十一條ノ規定ハ民法第四百九十七條ノ裁判所ノ許可ニ之ヲ準用ス

第八十四條 民法第五百八十二條ノ鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ不動産所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ前項ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ買主ノ負擔トス呼出及ヒ訊問ノ費用亦同シ

第八十五條 民法第一千三十二條第二項、第一千三十四條、及ヒ第一千三百三十二條第二項ノ鑑定人ノ選任呼出及ヒ訊問ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第八十六條 民法第一千四十七條及ヒ第一千五十條ノ場合ニ於タル鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ第六十七條ニ定メタル裁判所ノ管轄トス

第八十七條 民法第一千三十二條第二項、第一千三十四條、第一千四十七條及ヒ第一千五十條ノ場合ニ於タル鑑定人ノ選任ニ關スル費用ハ相續財産ノ負擔トス

第八十八條 第十五條ノ規定ハ本章ノ手續ニハ之ヲ適用セス

第八十九條 本章ノ規定ニ依リテ指定若クハ選任ヲ爲シ又ハ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

### 第五章 隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ

#### 關スル事件

第九十條 隱居ノ許可ハ隱居ヲ爲サントスル戸主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス  
許可ノ申請ニハ法定ノ推定家督相續人ヲ表示シ又ハ家督相續人タルヘキコトヲ承認シタル者ヲ表示シ且其者ヲシテ署名、捺印セシムヘシ

隱居ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第九十一條 廢家ノ許可ハ廢家セントスル戸主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

利害關係人及ヒ檢事ハ前項ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得  
第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第九十二條 子ノ懲戒ニ關スル事件ハ子ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

非訟事件手續法

第二編 第五章 隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件 十九



檢事ハ前項ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得  
第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第九十三條 民法第九百七十八條ノ戶主權ノ行使ニ付キ必要ナル處分ハ第六十六條ニ定メ  
タル裁判所ノ管轄トス

第九十四條 家督相續人ノ選定ニ關スル許可ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス  
裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財產ノ負擔ト  
ス

第九十五條 親族及ヒ檢事ハ前條ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得  
第六十二條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第九十六條 無能力者ノ爲メニ設クヘキ親族會ニ關スル事件ハ其者ノ住所地ノ區裁判所ノ  
管轄トス

裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ無能力者ノ負擔ト  
ス

第九十七條 家督相續人ノ選定ノ爲メニ開クヘキ親族會ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁  
判所ノ管轄トス

裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財產ノ負擔ト  
ス

第九十八條 前二條ニ掲ケサル事件ノ爲メニ開クヘキ親族會ニ關シテハ事件ノ本人ノ住所  
地ノ區裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ事件ノ本人ノ負擔  
トス

第九十九條 裁判所ハ親族會員又ハ其補缺員ノ選定ニ付キ申請人又ハ民法第九百四十四條  
ニ掲ケタル者ヲシテ會員タルニ適當ナル者ヲ指名セシムルコトヲ得

第一百條 親族會員タルコトヲ辭セントスル者ハ裁判所ニ其申請ヲ爲スヘシ  
前項ノ申請ニ相當スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第一百一條 親族會ノ招集又ハ親族會員ノ辭任ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告  
ヲ爲スコトヲ得

民法第九百四十四條ニ掲ケタル者ハ親族會員タルコトヲ得サル者ノ選任ニ對シテ抗告ヲ  
爲スコトヲ得

第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

非訟事件手續法

第二編 第五章  
台ニ關スル事件

隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族

第二百二條 親族會員其他民法第九百四十四條ニ掲ケタル者ハ親族會ノ決議ニ代ハルヘキ裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ裁判ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第六章 相續ノ承認及ヒ拋棄ニ關スル事件

第二百三條 民法第一千七百條第一項但書ニ定メタル期間ノ伸長ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第二百四條 相續ノ限定承認又ハ拋棄ノ申述ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第二百五條 相續ノ限定承認又ハ拋棄ノ申述ニハ第九條第一號、第二號、第四號及ヒ第五號

ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シテ申述人又ハ代理人之ニ署名、捺印スヘシ

一 被相續人ノ氏名及ヒ最後ノ住所

二 相續ノ限定承認又ハ拋棄ヲ爲ス旨

第二百六條 期間ノ伸長ノ申請又ハ相續ノ限定承認若クハ拋棄ノ申述ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七章 遺言ノ確認及ヒ執行

第二百七條 遺言執行者ノ選任及ヒ解任ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所ニ於テ選任シタル遺言執行者カ其任務ヲ辭セントスルトキ又ハ其就職ヲ拒マントスルトキハ相續開始地ノ區裁判所ニ其申立ヲ爲スヘシ

裁判所カ前二項ニ掲ケタル事件ニ付キ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財産ノ負擔トス

第二百八條 遺言執行者ヲ選任シタル裁判又ハ其任務ヲ辭シ若クハ就職ヲ拒ムコトヲ許可シタル裁判ニ對シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

遺言執行者ノ選任若クハ解任ノ申請又ハ其任務ヲ辭シ若クハ就職ヲ拒ム申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

遺言執行者ハ其解任ヲ命シタル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ遺言執行者カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス  
第二百九條 民法第一千七百六條及ヒ第一千八十一條但書ニ定メタル遺言ノ確認ハ遺言者ノ住所

地又ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス  
手續ノ費用ハ遺言者又ハ相續財産ノ負擔トス

非訟事件手続法 第二編 第六章 相續承認及ヒ拋棄ニ關スル事件 第七章 遺言ノ確認及ヒ執行

第一百十條 遺言ノ確認ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
利害關係人及ヒ檢事ハ遺言ノ確認ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ確認ノ  
申請人カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス  
前條第二項ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ適用ス

第一百一十條 遺言書ノ檢認ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第一百十二條 遺言書ノ檢認ハ公證人カ記載シタルモノヲ除ク外遺言ノ方式ニ關スル總テノ  
事實ヲ調査シテ之ヲ爲ス

第一百十三條 封印アル遺言書ノ開封ニ付テハ豫メ其期日ヲ定メテ相續人ヲ呼出スヘシ  
第一百十四條 遺言書ノ提出、開封及ヒ檢認ニ付テハ調査ヲ作ルヘシ

調査ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ

- 一 提出者ノ氏名、住所
- 二 提出、開封及ヒ檢認ノ年月日
- 三 立會人ノ氏名、住所
- 四 訊問シタル證人、鑑定人、相續人其他ノ利害關係人ノ氏名、住所及ヒ其陳述
- 五 事實調査ノ結果

第一百十五條 裁判所ハ遺言書ノ開封及ヒ檢認ヲ爲シタルトキハ出頭セザリシ相續人其他遺  
言ノ旨趣ニ關係アル者ニ其旨ヲ告知スヘシ

前項ニ掲ケタル者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ前條ノ調査ヲ閱覽スルコトヲ得

第一百十六條 遺言書ノ提出、開封並ニ檢認及ヒ其告知ノ費用ハ相續財産ノ負擔トス

### 第八章 法人及ヒ夫婦財産契約ノ登記

第一百十七條 法人ノ登記ニ付テハ法人ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄  
登記所トス

第一百十八條 夫婦財産契約ノ登記ニ付テハ夫ト爲ルヘキ者ノ住所地ノ區裁判所又ハ其出張  
所ヲ以テ管轄登記所トス

夫ト爲ルヘキ者カ入夫又ハ婿養子ナルトキハ妻ト爲ルヘキ者ノ住所地ノ區裁判所又ハ其  
出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第一百十九條 各登記所ニ法人登記簿及ヒ夫婦財産契約登記簿ヲ備フ

第一百二十條 法人設立ノ登記ハ理事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ定款、理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ主務官廳ノ許可書又ハ其認證アル謄本ヲ

添附スルコトヲ要ス

第二百一十一條 事務所ノ移轉其他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事、理事ノ缺ケタル場合ニ於テハ假理事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ理事又ハ假理事ノ資格ヲ證スル書面、及ヒ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添付シ且主務官廳ノ許可ヲ要スルモノニ付テハ其許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百一十二條 法人ノ解散ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及ヒ理事カ清算人タラサル場合ニ於テハ清算人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百一十三條 夫婦財産契約ニ關スル登記ハ契約者雙方ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ夫婦財産契約書又ハ管理者ノ變更若クハ共有財産ノ分割ヲ許可シタル判決ノ謄本又ハ之ニ關スル契約書ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百一十四條 第一百七條、第二百二條乃至第二百四條ノ規定ハ日本ニ事務所ヲ設ケタル外國法人ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二百五條 第四百一一條乃至第五百一一條、第五百四條乃至第五百五十七條及ヒ第七十七條ノ規定ハ本章ニ定メタル登記ニ之ヲ準用ス

### 第三編 商事非訟事件

#### 第一章 會社及ヒ競賣ニ關スル事件

第二百二十六條 商法第四十七條、第四十八條、第一百一條第二項、第二百四條、第六十一條第二項、第九十六條第二項、第九十八條及ヒ商法施行法第六十七條第二項ニ定メタル事件ハ會社ノ本店所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス

商法第二百六十條ニ定メタル事件ハ閉鎖ヲ命セラルヘキ外國會社ノ支店ノ所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス

商法第二百八十八條第一項、第二百八十九條及ヒ第六百七條第一項ニ定メタル事件ハ競賣ニ付スヘキ物品所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第二百二十七條 検査役ノ選任ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス  
申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ取締役又ハ株主之ニ署名、捺印スヘシ

一 申請ノ事由

二 検査ノ目的

三 年月日

非訟事件手続法

第三編

商事非訟事件

第一章

會社及ヒ競賣ニ關スル

二十七

四 裁判所ノ表示

第二百二十八條 検査役ノ報告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス  
裁判所ハ検査ニ付キ説明ヲ必要トスルトキハ検査役ヲ審訊スルコトヲ得  
第二百二十九條 商法第二百二十四條第二項ノ規定ニ依ル裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之  
ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前發起人及ヒ取締役ノ陳述ヲ聽クヘシ  
發起人及ヒ取締役ハ第一項ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百三十條 商法第九十八條ノ検査ニ付キ株生總會ノ招集ヲ必要ト認ムルトキハ裁判  
所ハ一定ノ期間内ニ其招集ヲ爲スヘキコトヲ命スヘシ

第二百三十一條 商法第一百一條第二項ノ規定ニ依リ検査ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ檢  
査ヲ要スル事由、同法第六十一條第二項ノ規定ニ依リ總會招集ノ許可ヲ申請スル場合  
ニ於テハ取締役カ其招集ヲ怠リシ事實ヲ説明スルコトヲ要ス  
前項ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百三十二條 前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ裁判所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ  
爲スヘシ

申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百三十三條 商法第九十六條第二項ノ規定ニ依ル定款ノ認可ノ申請ハ開業前ニ利息ノ  
配當ヲ爲スコトヲ要スル事由ヲ説明シ總發起人又ハ總取締役之ヲ爲スヘシ

前項ノ申請ニ對スル裁判ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用ス

第二百三十四條 商法第四十七條、第四十八條及ヒ商法施行法第六十七條第二項ノ場合ニ於  
ケル會社ノ解散ノ命令ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前利害關係人ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ

前二項ノ規定ハ會社ノ申請ニ因リ開業期間ノ伸長ニ付キ裁判ヲ爲ス場合及ヒ日本ニ設立  
シタル外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十五條 會社及ヒ檢事ハ前條ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停  
止ノ效力ヲ有ス

會社ノ解散又ハ外國會社ノ支店ノ閉鎖ノ裁判カ確定シタルトキハ裁判所ハ解散シタル會  
社ノ本店及ヒ支店又ハ閉鎖シタル外國會社ノ支店所在地ノ商業登記所ニ其登記ノ囑託ヲ  
爲スヘシ抗告裁判所カ其裁判ヲ爲シタルトキ亦同シ

抗告裁判所カ會社ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗

告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

三十

## 第二章 會社ノ清算人ノ選任及ヒ解任

第三百三十六條 清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三百三十七條 清算人ノ選任又ハ解任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス  
第三百三十八條 左ニ掲ケタル者ハ清算人トシテ選任スルコトヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 禁治産者及ヒ準禁治産者
- 三 剝奪公權者及ヒ停止公權者
- 四 裁判所ニ於テ解任セラレタル清算人
- 五 破産者

## 第三章 商業登記

### 第一節 通則

第三百二十九條 商法ノ規定ニ依リテ登記ノ申請ヲ爲ス者ノ營業所所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第四百十條 各登記所ニ左ノ商業登記簿ヲ備フ

- 一 商業登記簿
- 二 未成年者登記簿
- 三 妻登記簿
- 四 後見人登記簿
- 五 支配人登記簿
- 六 合名會社登記簿
- 七 合資會社登記簿
- 八 株式會社登記簿
- 九 株式合資會社登記簿
- 十 外國會社登記簿

第四百十一條 各登記所ニ各商業登記簿ノ見出帳ヲ備フ

第四百十二條 登記所ハ何人ニモ登記簿ノ閲覧ヲ許シ又ハ手数料ヲ納付スルトキハ之ニ其謄本若クハ抄本ヲ交付スヘシ

登記所ハ登記上利害ノ關係ヲ疏明シテ申請ヲ爲シタル者ニハ其關係アル部分ニ限り登記

非訟事件手續法

第三編 第二章 會社ノ清算人ノ選任及ヒ解任  
第三章 商業登記 第一節 通則

三十一

簿ノ附屬書類ノ閲覧ヲ許スヘシ

郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ請フトキハ登記所ハ之ヲ送付スヘシ

第四百三十三條 登記所ハ申請ニ因リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ爲スヘシ

第四百四十四條 登記シタル事項ノ公告ハ官報及ヒ新聞紙上ニ少クモ一回之ヲ爲スコトヲ要ス

公告ハ之ヲ掲載シタル最終ノ官報及ヒ新聞紙發行ノ日ノ翌日之ヲ爲シタルモノト看做ス  
第四百四十五條 區裁判所ハ毎年十二月ニ翌年登記事項ノ公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙ヲ選定シ官報及ヒ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙カ休刊又ハ廢刊ヲ爲ストキハ更ニ他ノ新聞紙ヲ選定シ前項ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第四百四十六條 區裁判所ハ其管轄内ニ公告ヲ爲サシムルニ適當ナル新聞紙ナシト認ムルトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ登記所及ヒ其管轄内ノ市町村役場ノ揭示場ニ公告ヲ爲スコトヲ得

第四百四十七條 登記スヘキ事項ノ登記、其變更又ハ消滅ノ登記ハ本法ニ別段ノ定アル場合

ヲ除ク外當事者ノ申請アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百四十八條 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其更正ヲ申請スルコトヲ得

第四百四十九條 登記ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人又ハ其代理人之ニ署名、捺印スヘシ

- 一 申請人ノ氏名、住所、會社カ申請人ナルトキハ其商號及ヒ本店又ハ支店
- 二 代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其氏名、住所
- 三 登記ノ目的及ヒ事由

四 年月日

五 登記所ノ表示

第五百十條 本章ノ規定ニ依リ連署ヲ以テ申請ヲ爲スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ニ因リ連署スルコト能ハサル者アルトキハ其他ノ者ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得

連署ヲ爲スコト能ハサル事由ハ之ヲ證明スルコトヲ要ス

第五百十一條 登記所ハ登記ノ申請カ商法又ハ本章ノ規定ニ適セザルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ申請人ニ送達スルコトヲ要ス

第五百十二條 破産裁判所カ商業登記ヲ爲シタル者ニ對シ破産ヲ宣告シタルトキハ其營業所所在地ノ登記所ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス破産手續ノ停止、破産宣告ノ取消、破産手續ノ終結又ハ確定シタル協諧契約ノ認可アリタルトキ亦同シ

支拂猶豫カ無効ト爲リタル場合ニ於テハ之ヲ認可シタル裁判所、協諧契約ノ認可ヲ受ケタル破産者カ有罪破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其協諧契約カ取消サレタル場合ニ於テハ受訴裁判所ハ前項ノ登記所ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第五百十三條 登記所カ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ破産者ノ商業登記ニ其通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス但其公告ヲ爲スコトヲ要セス

第五百十四條 商業登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ一定ノ期間ヲ定メテ登記ノ回復ニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第五百十五條 司法大臣ハ數個ノ登記所ノ管轄ニ屬スヘキ商業登記ノ事務ヲ其一登記所ニ委任スルコトヲ得

第五百十六條 登記簿ノ調製其他登記ニ關スル施行細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第五百十七條 不動産登記法第十一條、第十四條、第十九條、第二十一條、第二十二條及

ト第二十四條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス

### 第二節 商號ノ登記

第五百十八條 商號ノ登記ハ同市町村内ニ於テハ同一ノ營業ノ爲メ他人カ登記シタルモノト判然區別シ得ルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五百十九條 商法施行法第八條第一項ノ規定ニ依リ他人カ登記シタル商號ト同一ノ商號ノ登記ヲ申請スル者ハ商法施行前ヨリ之ヲ使用スルコトヲ證明スルコトヲ要ス

第六十條 商號ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外營業ノ種類ヲ記載スヘシ商號ノ變更ノ登記ヲ申請スルトキ亦同シ

第六十一條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ノ承繼人カ商號ヲ續用セントスルトキハ其資格ヲ證スル書面又ハ讓受證書ヲ添ヘ其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

商號ノ登記ヲ爲シタル者又ハ其法定代理人カ氏、名若クハ住所ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク其登記ヲ申請スヘシ法定代理人ニ變更アリタルトキ亦同シ

第六十二條 商號ヲ廢止シ又ハ變更シタルトキハ當事者ハ其登記ヲ申請スヘシ承繼人又ハ法定代理人カ前項ノ申請ヲ爲ストキハ申請書ニ其資格ヲ證スル書面ヲ添附ス

ルコトヲ要ス



第六十三條 商法第二十四條第一項ノ規定ニ依リテ商號登記ノ抹消ヲ申請スル者ハ其登記上利害ノ關係ヲ有スルコトヲ説明スルコトヲ要ス

第六十四條 前條ノ申請アリタルトキハ登記所ハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ其旨ヲ告知シ且一個月ヨリ長カラサル期間ヲ定メ異議アラハ其期間内ニ之ヲ申立ツヘキ旨ヲ催告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ告知及ヒ催告ヲ受クヘキ者又ハ其居所カ知レサルトキハ告知及ヒ催告ハ登記ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

登記所ハ右ノ外相當ト認ムル他ノ新聞紙ニ同一ノ公告ヲ掲載セシムルコトヲ得

第六十五條 前條ノ規定ニ從ヒテ異議ノ申立アリタルトキハ登記所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第三節 未成年者、妻及ヒ後見人ノ登記

第六十六條 未成年者カ商業ヲ營ム場合ニ於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記載シ法定代理人ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但法定代理人カ之ニ連署スルトキハ此限ニ在ラス

親權ヲ行フ母又ハ後見人カ同意ヲ爲シタル場合ニ於テハ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添附スルコトヲ要ス繼父、繼母又ハ嫡母カ同意ヲ爲シタルトキ亦同シ

第六十七條 妻カ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記載シ夫ノ許可ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但夫カ之ニ連署スルトキハ此限ニ在ラス

夫カ未成年者ナルトキハ前項ノ許可ヲ爲スニ付キ必要ナル同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添附スルコトヲ要ス

妻カ夫ノ許可ヲ得ルコトヲ要セサル場合ニ於テ商業ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十八條 商業ヲ營ムコトノ許可ヲ爲シタル者カ之ヲ取消シ又ハ之ヲ制限シタルトキハ遲滞ナク其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

第六十六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 前條ノ規定ニ從ヒテ制限ノ登記ノ申請アリタルトキハ登記所ハ原登記ニ其旨ヲ記載スヘシ

第七十條 法定財産制ニ異リタル契約ノ登記ヲ爲シタル妻カ商業ノ登記ヲ申請スルトキ又ハ其商業ノ登記ヲ爲シタル後管理者ノ變更若クハ共有財産ノ分割ノ登記ヲ爲シタルトキハ書面ヲ以テ登記所ニ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ届出アリタルトキハ登記所ハ當事者ノ商業登記ニ之ヲ記載スヘシ

第七十一條 後見人カ被後見人ノ爲メ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四節 支配人及ヒ會社ノ清算人ノ登記

第七十二條 支配人ノ選任ノ登記ハ主人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

會社カ申請人ナルトキハ左ニ掲ケタル者ノ申請ニ因リテ前項ノ登記ヲ爲スヘシ

一 合名會社ニ於テハ會社ヲ代表スヘキ社員

二 株式會社ニ於テハ取締役

三 合資會社若クハ株式合資會社ニ於テハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員

第七十三條 支配人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 支配人ノ氏名、住所

二 申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人カ代理スヘキ商業及其用ニハキ商號

三 支配人ヲ置キタル場所

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ登記ノ年月日ヲ記載シ且之ニ支配人ノ選任ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十四條 第七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅又ハ解任ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

會社カ支配人ノ解任ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其解任ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十五條 清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄トス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第七十六條 清算人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ其選任ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十七條 清算人ノ解任又ハ變更ノ登記ハ現任清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ清算人ノ解任又ハ變更ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

非訟事件手続法

第三編 第三章 商業登記 第四節 支配人及ヒ會社清算人 三十九

第四百七十八條 清算ノ終了ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ清算人カ其計算ノ承認ヲ得タル  
コトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

四十

### 第五節 合名會社及ヒ合資會社ノ登記

第四百七十九條 合名會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス  
申請書ニハ定款ヲ添附シ且社員中ニ未成年者又ハ妻アルトキハ其社員タルコトニ同意ヲ  
爲スベキ者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四百八十條 合名會社ノ支店ノ設立、其本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ會社ヲ代  
表スヘキ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ申請書ニハ其登記事項ニ付キ總社員ノ同意又ハ或社員ノ一致ヲ要スル場合ニ於テ  
ハ會社ヲ代表スヘキ社員ノ定アルトキニ限り總社員ノ同意又ハ或社員ノ一致アリタルコ  
トヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

商法第八十三條但書ノ規定ニ依リ裁判所カ或社員ヲ除名シタル場合ニ於ケル變更ノ登記  
ノ申請書ニハ其判決ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

社員ノ氏、名若クハ住所ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス  
ヘシ

第四百八十一條 合名會社ノ解散ノ登記ハ總社員又ハ其相續人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且相續人カ申請ヲ爲ストキハ其資格ヲ證スル書面ヲ添附  
スルコトヲ要ス

會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタル場合ニ於テハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其  
登記ヲ爲スヘシ

第四百八十二條 合名會社ノ合併ニ因ル登記ハ解散スヘキ會社ノ總社員ノ申請ニ因リテ之  
ヲ爲ス

申請ニハ商法第七十八條第二項ニ依ル公告及ヒ催告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタ  
ル債權者アルトキハ之ニ對シテ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附  
スルコトヲ要ス

第四百八十三條 第七十九條第一項ノ規定ハ合名會社ノ合併ニ因ル變更又ハ設立ノ登記ノ申  
請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四百八十四條 合名會社カ社員ノ請求ニ因リ解散シタルトキハ各社員ノ申請ニ因リテ其登  
記ヲ爲スヘシ

前項ノ申請書ニハ判決ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

非訟事件手続法 第三編 第三章 商業登記 第五節 合名會社及ヒ合資會社ノ 四十一  
登記

前二項ノ規定ハ判決ニ因リ會社ノ設立カ取消サレタル場合ニ於ケル登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

第八十五條 合名會社ニ於テ總社員ノ申請ニ因リテ爲スヘキ登記ハ合名會社ニ於テハ其無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於ケル解散ノ登記ハ無限責任社員又ハ其相續人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第八十六條 第七十九條第二項及ヒ第八十條乃至第八十四條ノ規定ハ合資會社ノ登記ニ之ヲ準用ス

### 第六節 株式會社ノ登記

第八十七條 株式會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 定款
- 二 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタル場合ニ於テハ各發起人ノ引受ケタル株式ノ員數ヲ記載シタル書面
- 三 株主ヲ募集シタルトキハ各株主ノ株式申込證及ヒ株主名簿

四 商法第三百三十四條ノ規定ニ從ヒテ取締役及ヒ監査役又ハ検査役カ爲シタル調査報告書及ヒ其附屬書類

五 検査役ノ報告ニ關スル裁判アルトキハ其謄本

六 發起人カ取締役及ヒ監査役ヲ選任シタルトキハ之ニ關スル書類

七 開業前ニ利息ノ配當ヲ爲スヘキ定款ノ定アルトキハ之ヲ認可シタル裁判ノ謄本

八 會社ノ事業ノ目的カ官廳ノ認許ヲ受クヘキモノナルトキハ其認許書又ハ其認證アル謄本

九 創立總會ノ決議錄

第八十八條 支店ノ設立本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ登記事項ニ付キ株主總會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テハ其決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

取締役又ハ監査役ノ氏、名若クハ住所ノ變更ノ登記ハ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第八十九條 會社ノ資本増加ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 株金全額ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面

- 二 新株主ノ株式申込證及ヒ新株主名簿
- 三 商法第二百十四條ノ規定ニ從ヒテ監査役又ハ検査役カ爲シタル調査報告書及ヒ其  
附屬書類

四 資本ノ増加ニ關スル株主總會ノ決議錄

第九十條 會社ノ資本減少ノ登記ノ申請書ニハ之ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ添附スル  
コトヲ要ス

第八十二條第二項ノ規定ハ資本減少ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第九十一條 社債ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 最終ノ貸借對照表
  - 二 社債ノ募集ノ公告ヲ爲シタルコトヲ證スル書面
  - 三 各社債ニ付キ全額ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面
  - 四 社債原簿
  - 五 社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄
- 第九十二條 會社カ社債ノ全部又ハ一部ヲ償還シタルトキハ取締役ハ遲滞ナク其登記ヲ  
爲スヘシ

前項ノ登記ノ申請書ニハ償還シタル金額ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第九十三條 會社ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且會社カ株主總會ノ決  
議又ハ合併ニ因リテ解散シタルトキハ株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十二條第二項ノ規定ハ株式會社カ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ  
準用ス

會社カ裁判所ノ命令ニ因リ解散シタルトキハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲  
スヘシ

第九十四條 保險會社カ合併ニ因ル設立若クハ變更又ハ解散ノ登記ヲ申請スルニハ申請  
書ニ主務官廳ノ認許書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス會社カ株主總會ノ決議  
ニ因リ解散ヲ爲シタル場合ニ於テ其登記ヲ申請スルトキ亦同シ

第九十五條 第八十七條第一項ノ規定ハ會社ノ資本ノ増加若クハ減少又ハ社債ノ登記  
及ヒ會社ノ解散又ハ會社ノ合併ニ因ル變更若クハ設立又ハ解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合  
ニ之ヲ準用ス

### 第七節 株式合資會社ノ登記

第九十六條 株式合資會社ノ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因

リテ之ヲ爲ス

第七十九條第二項及ヒ第八十七條第二項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第九十七條 支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ申請書ニハ株主總會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テハ決議ヲ添附スルコトヲ要スル外第九十八條第二項及ヒ第三項ノ規定ヲ準用ス

無限責任社員又ハ監査役ノ氏、名若クハ住所ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第九十八條 第九十九條、第一百零一條及ヒ第九十六條第一項ノ規定ハ資本ノ増加若クハ減少又ハ社債ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

會社カ社債ノ一部ヲ償還シタルトキハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ハ遲滞ナク其登記ヲ爲スヘシ

第九十二條第二項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第九十九條 第九十六條第一項ノ規定ハ會社ノ合作ニ因ル變更又ハ設立ノ登記ノ申請

ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第一百條 株式合資會社ノ解散ノ登記ハ無限責任社員ノ全員又ハ其相續人及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス但無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於ケル解散ノ登記ハ無限責任社員又ハ其相續人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附シ且無限責任社員ノ同意及ヒ株主總會ノ決議ニ因リ又ハ會社ノ合併ニ因リテ解散シタルトキハ之ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ添付スルコトヲ要ス

第八十二條第二項ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

第一百一條 株式合資會社ノ組織ヲ變更シ株式會社ト爲シタル場合ニ於ケル設立ノ登記ハ設立シタル株式會社ノ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ會社ノ組織ノ變更ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ添付スルコトヲ要ス

第八十二條第二項及ヒ第八十七條第二項ノ規定ハ本條第一項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

前三項ノ規定ハ商法第二百四十七條ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ繼續スル場合ニ之ヲ準用ス

### 第八節 外國會社ノ登記

第二百二條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其登記ヲ申請スルトキハ會社ノ

代表者ハ申請書ニ支店ノ代表者ノ氏名 住所ヲ記載シ且左ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

一 本店ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面

二 代表者タル資格ヲ證スル書面

三 會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面

前項ノ書面ハ外國會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第二百三條 日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ代表者ニ變更アリタルトキハ現任代

表者ハ管轄登記所ニ其届出ヲ爲スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二百四條 外國會社ノ支店ノ廢止又ハ其登記事項ノ變更ノ登記ハ支店ノ代表者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ代表者カ外國ニ於テ生シタル登記事項ノ變更ニ

付キ其登記ヲ申請スル場合ニ於テハ會社ノ本國管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證アル書面ニ依リテ變更ノ事實ヲ證明スルコトヲ要ス

第二百五條 登記所ハ日本ニ設立シタル外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命シタル裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ抹消スヘシ

### 附則

第二百六條 民法第八十四條 第一千七百七條及ヒ民法施行法第二十二條及ヒ商法第十八條第

二項、第二百六十一條、第二百六十二條、第五百三十三條及ヒ商法施行法第六條第二項、

第七條第二項、第十八條第二項、第二十一條第二項、第三十條第二項、第三十一條第四

項及ヒ第三十五條第二項ニ定メタル事件ハ過料ニ處セラレヘキ者ノ住所地ノ地方裁判所

ノ管轄ス

第二百七條 過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ申述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ

當事者及ヒ檢事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ効力ヲ

有ス

抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ヒ前審ニ

於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ負擔トス

第二百八條 過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義  
ト同一ノ効力ヲ有ス

過料ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲  
スコトヲ要セズ

第二百九條 明治二十三年法律第九十五號非訟事件手續法其他從前ノ法令ニシテ本法ノ規  
定ニ牴觸シ又ハ之ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二百十條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 非訟事件手續法終

# 競 賣 法



競 賣 法

第一章 通則	一
第二章 動產ノ競賣	一
第三章 不動產ノ競賣	六
第四章 船舶ノ競賣	〇
第五章 增價競賣	〇
附則	四

# 競賣法

## 第一章 通則

第一條 競買ノ申込ハ他ノ高價競買ノ申込アリタルトキ又ハ競落ヲ爲サシテ競賣ヲ終了シタルトキハ當然其效力ヲ失フ

第二條 競買人ハ競落ニ因リテ競賣ノ目的タル權利ヲ取得ス

競賣ノ目的ノ上ニ存スル先取特權及ヒ抵當權ハ競落ニ因リテ當然消滅ス

競買人ハ留置權者、競賣人ニ對シテ優先權ヲ有スル質權者及ヒ其質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル債權者ニ辨濟スルニ非サレハ競賣ノ目的物ヲ受取ルコトヲ得ス

## 第二章 動産ノ競賣

第三條 動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者其他民法又ハ商法ノ規定ニ依リテ其競賣ヲ爲サントスル者ノ委任ニ因リテ競賣ヲ爲スヘキ地ノ區裁判所所屬ノ執達吏之ヲ爲ス

前項ノ委任ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 競賣ノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ其競買人ト爲ルコトヲ得ス

債權者ノ委任ニ因リテ競賣ヲ爲ス場合ニ於テハ債務者ハ現金ヲ以テ代價ヲ提供スルニ非  
ザレハ其競賣ノ申込ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 競賣ハ競賣ニ付スヘキ物ノ所在地ニ於テ之ヲ爲ス但其地ニ於テ相當ノ代價ヲ得ル  
見込ナキトキハ他所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第六條 競賣ノ日時ハ執達吏カ其委任ヲ受ケタルトキ直チニ之ヲ定ムルコトヲ要ス但直チ  
ニ之ヲ定ムルコト能ハサル事情アルトキハ此限ニ在ラス

第七條 競賣ノ場所及ヒ日時ハ豫メ之ヲ公告スルコトヲ要ス  
公告ハ競賣ニ付スヘキ物ノ品質及ヒ價格ニ準シ競賣地ニ於ケル適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲  
スヘシ

公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 競賣委任者ノ氏名、住所
- 二 競賣ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質
- 三 競賣ノ條件ヲ定メタルトキハ其條件
- 四 競賣ノ場所、年月日時
- 五 競賣ノ委任ヲ受ケタル執達吏ノ氏名、住所

委任者カ競賣ノ條件ヲ定メサリシトキハ民事訴訟法第五百七十七條第三項ノ規定ヲ準用  
ス

第八條 競賣ノ場所及ヒ日時ハ競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シテ其通知ヲ發スル  
コトヲ要ス但通知ヲ受クヘキ者カ知レサルトキハ此限ニ在ラス

第九條 公告ト競賣トノ間ニハ五日以上ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス但競賣ニ付スヘキ物ニ  
關シ之ヨリ速ニ競賣ヲ爲スコトヲ要スル特別ノ事情アルトキハ此限ニ在ラス

第十條 高價品ノ競賣ハ鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシメタル後之ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 金銀及ヒ金銀ノ製品ハ地金銀ノ相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競賣スルコトヲ得  
ス

第十二條 前條ニ掲ケタル物ヲ競賣スル場合ニ於テ競賣ノ日ニ相當ナル競買ノ申込ナキト  
キハ執達吏ハ金銀及ヒ金銀ノ製品ニ付テハ地金銀ノ相場以上ノ代價、取引所ノ相場アル  
物ニ付テハ競賣ノ日ノ相場以上ノ代價ヲ以テ任意ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第十三條 競賣ハ其條件ヲ告知シ各競賣物ニ付キ競買ノ申込ヲ催告スルニ始マリ最高價競  
買ノ申込人ニ對シ競落ノ告知ヲ爲ス因リテ終了ス

競落告知ハ最高價競買ノ申込ヲ三回呼上クタル後之ヲ爲ス

第十四條 執達吏ハ競賣調書ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シ署名、捺印スヘシ

四

- 一 競賣委任者ノ氏名、住所
  - 二 競賣ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質
  - 三 鑑定人ヲシテ評價ヲ爲サシメタルトキハ其評價額
  - 四 競賣ノ場所及ヒ日時
  - 五 第九條但書ノ事由アリタルトキハ其事由
  - 六 利害ノ關係ヲ有スル者ニ通知ヲ發シタルコト若シ之ヲ發セサリシトキハ其事由
  - 七 告知シタル競賣ノ條件
  - 八 競賣物ニ對スル競落人ノ氏名及ヒ其申込價額
  - 九 競賣ヲ停止シタルトキ又ハ競落ヲ爲ササリシトキハ其事由
  - 十 競賣ノ開始及ヒ完結ノ日時
  - 十一 競賣調書ヲ作りタル場所及ヒ年月日
- 競賣調書ニハ委任者又ハ其代理人ヲシテ署名、捺印セシメ且競賣ノ公告ヲ爲シ及ヒ通知ヲ發シタルコトヲ證スル書面及ヒ委任狀ヲ添附スルコトヲ要ス
- 執達吏ハ委任者ノ請求ニ因リ競賣調書ノ謄本ヲ交付スルコトヲ要ス

第十五條 執達吏ハ競賣ノ完結後賣得金ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金及ヒ競落セザリシ物ハ遲滞ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付シ又ハ其者ノ爲メニ之ヲ供託スルコトヲ要ス

第十六條 執達吏ハ競賣ニ付キ正副二通ノ計算書ヲ作り其正本ハ計算ニ關スル證明書ト共ニ之ヲ委任者ニ交付シ其副本ハ之ヲ競賣調書ニ添附スヘシ

第十七條 競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ハ競賣ノ完結ニ至ルマテ其手續ニ關スル執達吏ノ處分ニ付キ其所屬區裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ裁判ハ申立人ニ之ヲ通知スヘシ此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十八條 前條ノ規定ニ依リテ異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ競賣ノ停止ヲ命スルコトヲ得但停止ニ因リテ著シキ損害ヲ生スル虞アルトキハ此限ニ在ラス

第十九條 第三者カ競賣ノ目的物ニ關シテ訴ヲ提起シタルコトヲ證明シタルトキハ執達吏ハ其競賣ヲ停止スルコトヲ要ス

物ノ保管ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ又ハ遲滞ノ爲メ著シク物ノ價格ヲ減少スル虞アルトキハ執達吏ハ競賣ヲ續行シテ賣得金ヲ供託スルコトヲ得

第二十條 前二條ノ規定ニ依リテ競賣ヲ停止シタル場合ニ於テハ執達吏ハ相當ノ方法ヲ以

テ競賣ノ目的物ヲ保管スルコトヲ要ス此場合ニ於ケル競賣手續及ヒ保管ノ費用ハ委任者ノ負擔トス

第二十一條 競賣ノ委任ハ競落ノ告知アルマテ之ヲ取消スコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル競賣手續ノ費用ハ委任者ノ負擔トス

### 第三章 不動産ノ競賣

第二十二條 不動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者、抵當權者其他民法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ爲サントスル者ノ申立ニ因リ不動産所在地ノ區裁判所之ヲ爲ス

民事訴訟法第六百四十一條第一項ノ規定ハ競賣ヲ爲スヘキ裁判所ノ管轄ニ之ヲ準用ス

第二十三條 申立人ハ競賣期日マテハ最高價競買申込人ノ同意アル場合ニ限り其申立ノ取  
下ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 競賣ノ申立ハ書面ヲ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其代理人之ニ署名、捺印スヘシ

- 一 債務者及ヒ所有者ノ氏名、住所
- 二 競賣ニ付スヘキ不動産ノ表示
- 三 競賣ノ原因タル事由

四 年月日

五 裁判所

申立書ニハ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ノ謄本及ヒ代理人ニ依リテ申立ヲ爲ス  
トキハ其委任狀ヲ添附スルコトヲ要ス

民事訴訟法第六百四十三條第一項第二號乃至第五號、第二項及ヒ第三項ノ規定ハ第一項  
ノ申立ニ之ヲ準用ス

第二十五條 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

開始決定ニハ申立人ノ氏名、住所及ヒ前條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記  
載シ決定ヲ爲シタル判事之ニ署名、捺印スヘシ

民事訴訟法第二百三十九條ノ規定ハ開始決定ニ之ヲ準用ス

第二十六條 裁判所ハ開始決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ競賣  
ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ニ登記スヘキ旨ヲ其管轄登記所ニ囑託スヘシ

民事訴訟法第六百五十一條第二項、第六百五十二條及ヒ第六百五十三條ノ規定ハ前項ノ  
場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 裁判所カ開始決定ヲ爲シタルトキハ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告

スルコトヲ要ス

競賣ノ期日ハ競賣手續ノ利害關係人ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス  
左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス

一 申立人

二 債務者及ヒ所有者

三 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者

四 不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者

第二十八條 裁判所ハ鑑定人ヲシテ競賣ニ付スヘキ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額トスヘシ

第二十九條 競賣期日ノ公告ニハ第二十二條ニ掲ケタル者ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號乃至第七號、第九號及ヒ第十號ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

民事訴訟法第六百六十一條ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス

第三十條 競賣期日、其開始、競賣調査及ヒ競賣終局ノ告知ニ關スル民事訴訟法第六百五十九條第六百六十二條乃至第六百六十九條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス

第三十一條 競賣期日ニ相當ノ競買申込ナキトキハ裁判所ハ更ニ期日ヲ定メテ競賣ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第六百七十條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 競落期日ハ民事訴訟法第六百六十條ノ規定ニ從ヒ裁判所ニ於テ之ヲ開ク競落ノ手續、競落ヲ許ササル場合ノ新競賣期日、競賣ノ履行及ヒ競落人ノ義務不履行ノ場合ニ於ケル再競賣ニ關スル民事訴訟法第六百七十一條乃至第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十三條、第六百八十七條及ヒ第六百八十八條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス

第三十三條 競落人ハ競落ヲ許ス決定ガ確定シタル後直チニ代價ヲ裁判所ニ支拂フコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ其裁判ノ騰本ヲ添ヘ競落人カ取得シタル權利ノ移轉ノ登記ヲ管轄登記所ニ囑託スヘシ  
裁判所ハ前項ノ代價ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金ハ遲滞ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付スルコトヲ要ス

第三十四條 裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ爲ス前申立ニ因リ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス

第三十五條 競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ第二十六條ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ノ抹消ヲ囑託スヘシ

#### 第四章 船舶ノ競賣

第三十六條 登記シタル船舶ノ競賣ハ申立ニ因リ其當時ノ碇泊港又ハ船舶ノ現在地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス

第三十七條 競賣ノ申立書ニハ船舶所有者並ニ船長ノ氏名、住所、船舶ノ表示及ヒ競賣ノ原因ヲ記載シ且船舶登記簿ノ謄本及ヒ官ノ認可ヲ要スル場合ニ於テハ其認可ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十八條 競賣期日ノ公告ニハ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外船舶ノ表示及ヒ其碇泊港又ハ現在ノ場所ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十九條 前章ノ規定及ヒ民事訴訟法第七百十九條、第七百二十條第二項、第七百二十三條、第七百二十五條ノ規定ハ船舶ノ競賣ニ之ヲ準用ス

#### 第五章 增價競賣

第四十條 民法第三百八十四條ノ規定ニ依リテ抵當不動産ノ增價競賣ヲ請求スル債權者ハ第三取得者ニ競賣ノ請求ヲ送達シタル日ヨリ三日内ニ抵當不動産所在地ノ區裁判所ニ

競賣ノ申立ヲ爲シ且擔保ノ認許ヲ求ムルコトヲ要ス  
前項ノ規定ニ依ラサル競賣ノ請求ハ無効トス

第四十一條 競賣ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ請求債權者之ニ署名、捺印スヘシ

- 一 債務者ノ氏名、住所
- 二 抵當不動産ノ表示
- 三 第三取得者及ヒ讓渡人ノ氏名、住所
- 四 擔保ノ表示
- 五 第三取得者カ提供シタル金額
- 六 請求者カ定メタル增價金額
- 七 年月日
- 八 裁判所

申立書ニハ民法第三百八十三條ノ送達ヲ受クタル日ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス  
民事訴訟法第六百四十三條第一項第三號乃至第五號、第二項及ヒ第三項ノ規定ハ本條ノ申立ニ之ヲ準用ス

第四十二條 裁判所ハ擔保ノ許否ニ付キ期日ヲ定メ決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ

期日ニハ請求債權者及ヒ第三取得者ヲ呼出タスヘシ

擔保ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四十三條 競賣ノ請求ハ擔保ヲ認許セサル裁判ニ因リテ當然其效力ヲ失フ

民法第三百八十四條ニ定メタル期間内ニ第三取得者ニ對シテ競賣ノ請求書ヲ送達シタル

他ノ債權者ハ前項ノ裁判アリタル日ヨリ三日内ニ第四十條ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 裁判所カ擔保ヲ認許シタルトキハ競賣手續ノ開始ノ決定ヲ爲スヘシ

決定ニハ認許シタル擔保ヲ表示シ且第四十一條第一項第一號乃至第三號 第六號及ヒ第

七號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

第二十五條第二項 第三項及ヒ第二十六條第一項ノ規定ハ本條ノ決定ニ之ヲ準用ス

第四十五條 第二十七條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ贈價競賣ニ之ヲ準用ス

左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス

- 一 競賣請求者
- 二 債權者
- 三 第三取得者及ヒ讓渡人

四 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者

五 不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者

第四十六條 競賣ノ公告ニハ増價競賣ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨及ヒ請求者ノ定メタル

増價金額ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號、第七號、第九號及

ヒ第十號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

第三十三條及ヒ民事訴訟法第六百五十九條乃至第六百六十九條、第六百七十一條乃至第

六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十三條、第六百八十七條ノ規定ハ本章ノ競

賣及ヒ競落ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四十七條 競賣期日ニ請求債權者カ定メタル増價金額ニ達スル競買ノ申込ヲキトキハ請

求債權者ヲ以テ競落人トス

民事訴訟法第六百七十八條ノ規定ニ依リ最高價競買人カ其競買ヲ取消シタルトキハ裁判

所ハ更ニ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第四十八條 増價競賣ノ擔保ハ競落代價ノ完済ニ因リテ其效力ヲ失フ

第四十九條 裁判所ハ競賣請求者ノ申立ニ因リ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲スヘシ此場合ニ於

テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス



附則

第五十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第五十一條 明治二十三年法律第九十二號增價競賣法ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

十四

競賣法終

戶籍法

戸籍法

第一章	戸籍吏及戸籍役場	一頁
第二章	身分登記簿	二
第三章	登記手續	四
第四章	身分ニ關スル届出	一〇
第一節	通則	一〇
第二節	出生	一五
第三節	嫡出子否認	一九
第四節	私生子認知	一九
第五節	養子縁組	二一
第六節	養子離縁	二二
第七節	婚姻	二四
第八節	離婚	二五
第九節	後見	二六

第十節	隱居	二七
第十一節	失踪	二九
第十二節	死亡	二九
第十三節	家督相續	三二
第十四節	推定家督相續人ノ廢除	三三
第十五節	家督相續人ノ指定	三四
第十六節	入籍、離籍及ヒ復籍拒絕	三五
第十七節	廢家及ヒ絕家	三八
第十八節	分家及ヒ廢絕家再興	三九
第十九節	國籍ノ得喪	四〇
第二十節	氏名及ヒ族稱ノ變更	四三
第二十一節	身分登記ノ變更	四四
第五章	戶籍簿	四四
第六章	戶籍ノ記載手續	四五

第七章	戶籍ニ關ルズ届出	五一
第八章	抗告	五四
第九章	罰則	五五
附則		五六

## 戸籍法

### 第一章 戸籍吏及ヒ戸籍役場

第一條 戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戸籍吏之ヲ管掌シ戸籍役場ニ於テ之ヲ取扱フ

第二條 市町村長ヲ以テ戸籍吏トス但區ヲ置キタル市ニ於テハ區長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第三條 戸籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ノ戸籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付テハ市町村長又ハ區長ノ事務ヲ代理スヘキ者戸籍吏ノ職務ヲ行フ

戸籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ト前項ノ規定ニ依リ戸籍吏ノ職務ヲ行フヘキ者又ハ之ト家ヲ同シクスル者トノ戸籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付テハ市ニ在リテハ市參事會員ノ一人、町村又ハ區ニ在リテハ他ノ吏員ノ上席者戸籍吏ノ職務ヲ行フ

第四條 戸籍役場ハ市役所又ハ町村役場ヲ以テ之ニ充ツ但區長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツル場合ニ於テハ區役所ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督ス